

3 環境分野

(1) 自然環境

| | | |
|------------------------|------------|-----------------|
| 年平均気温（2020年、青森市） | 11.6℃ | 平年値 10.7℃ |
| 年降水量（　　　　　） | 1,417.0 mm | 平年値 1,300.1 mm |
| 自然公園内観光地点の観光入込数（2020年） | 4,749,632人 | 前年比 3,058,447人減 |
| 白神山地入込者数（2020年） | 173,847人 | 前年比 150,766人減 |
| 民有林造林実績（2020年） | 433ha | 前年度比 14ha増 |

資料：気象庁観測データ、県環境生活部ほか

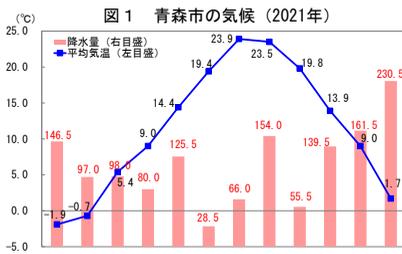
① 県土の概要

本県の総面積は、約 96 万 4,500ha であり国土の 2.6%を占め、全国第 8 位の大きさである。三方を海に囲まれ、内湾である陸奥湾があり、海岸線総延長は約 800km に及ぶ。本県全体の 65.6%が森林で、南西部に位置し、ブナ天然林の分布する広大な白神山地や、中央部に位置する八甲田連峰、十和田湖・奥入瀬溪流など、水と緑に囲まれた自然あふれる環境に恵まれている。

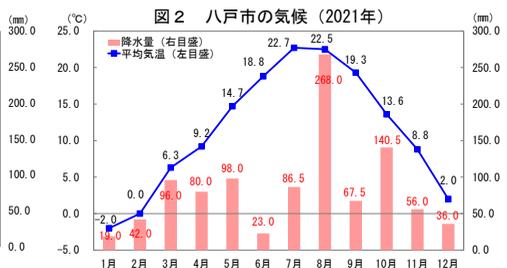
② 気候

本県は、三方向が海に面していることによる海流の影響と、奥羽山脈が県内を二分している地形の影響などから、県内でも地域によって気候が大きく異なる。

夏季は、太平洋側で、冷たく湿った偏東風である「ヤマセ」の影響で、低温・多湿の日が多くなる。冬季は、日本海側では大雪となり、太平洋側は乾燥した晴天の日が多くなり、奥羽山脈を境として、太平洋側のヤマセの影響と、日本海側の大雪が、本県の気候の特徴となっている。（図 1、図 2）



資料：気象庁



資料：気象庁

③ 大気環境

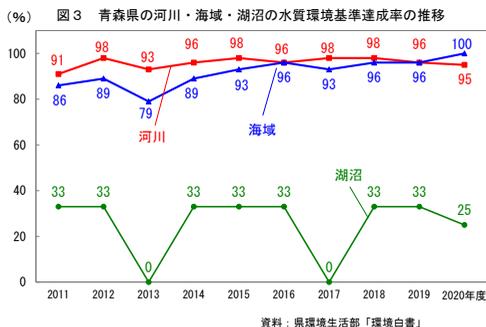
2020年度における本県の大気環境は、環境基準が定められている物質のうち、光化学オキシダント（6地点）を除いて環境基準を達成している。光化学オキシダントについては、全国的に環境基準を超過しており、成層圏オゾンの沈降による影響のほか、アジア大陸からの越境汚染の影響も原因として考えられている。

④ 水環境

2020年度調査の結果、河川では、有機性汚濁の代表的指標であるBOD（生物学的酸素要求量）が、類型指定されている56水域のうち53水域で環境基準を達成し、達成率は95%であった。

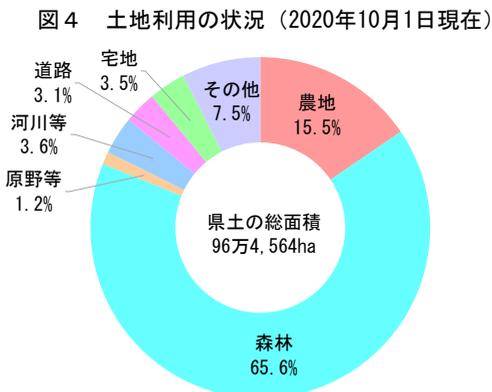
海域では同じく代表的指標であるCOD（化学的酸素要求量）が、類型指定されている28水域全てで環境基準を達成し、達成率は100%であった。

湖沼のCODについては、類型指定されている4水域（小川原湖、十和田湖、浅瀬石川ダム貯水池）のうち、浅瀬石川ダム貯水池で環境基準を達成し、達成率は25%であった。（図3）



⑤ 土地利用の状況

県土を土地利用区分別に見ると、森林が65.6%と最も大きな割合を占め、次いで農地15.5%、水面・河川・水路3.6%、宅地3.5%、道路3.1%などとなっている。（図4）



資料：県国土整備部「青森県の土地利用」

⑥ 自然公園の状況

2021年3月31日現在、国立公園2か所、国定公園2か所、県立自然公園7か所が指定されており、面積は県土面積の11.6%を占めている。

2020年の自然公園内における観光地点（全108地点）の入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、474万9,632人（対前年39.2%減）となっている。（表5）

表5 自然公園の概要

| 種別 | 名称 | 関係市町村 | 面積 (ha) | 観光入込客数 (千人、%) | | | | |
|--------|-----------------------|--------------------------------------|---------|---------------|-------|-------|------------|------|
| | | | | 観光地点数 | 2018 | 2019 | 2020年 (R2) | 前年比 |
| 国立公園 | 十和田八幡平 (十和田・八甲田地域) | 青森市、黒石市、十和田市、平川市 | 38,358 | 10 | 2,232 | 2,291 | 1,214 | 53.0 |
| | 三陸復興 (陸奥海岸・剛上岳地域) | 八戸市、階上町 | 2,423 | 9 | 490 | 566 | 453 | 80.0 |
| 国定公園 | 下北半島 | むつ市、大間町、東通村、佐井村 | 18,641 | 12 | 657 | 677 | 344 | 50.8 |
| | 津軽 | 弘前市、五所川原市、つがる市、今別町、外ヶ浜町、鰹ヶ沢町、深浦町、中泊町 | 25,966 | 38 | 2,107 | 2,056 | 1,235 | 60.0 |
| 県立自然公園 | 浅虫夏泊 | 青森市、平内町 | 4,964 | 10 | 1,008 | 980 | 583 | 59.5 |
| | 大鰐碓ヶ関温泉郷 | 平川市、大鰐町 | 6,730 | 5 | 103 | 105 | 77 | 73.0 |
| | 名久井岳 | 三戸町、南部町 | 1,076 | 3 | 116 | 117 | 96 | 82.3 |
| | 芦野池沼群 | 五所川原市、中泊町 | 612 | — | — | — | — | — |
| | 黒石温泉郷 | 黒石市、平川市 | 5,100 | 7 | 385 | 378 | 243 | 64.4 |
| | 岩木高原 | 弘前市 | 2,587 | 8 | 532 | 548 | 457 | 83.4 |
| | 津軽白神 | 鰹ヶ沢町、西目屋村 | 5,341 | 6 | 69 | 90 | 49 | 54.1 |
| | 小計 | | 26,410 | 39 | 2,213 | 2,217 | 1,504 | 67.8 |
| 合計 | | | 111,798 | 108 | 7,699 | 7,808 | 4,750 | 60.8 |

※表示単位未満の端数を四捨五入したことにより、一部計算が不一致。

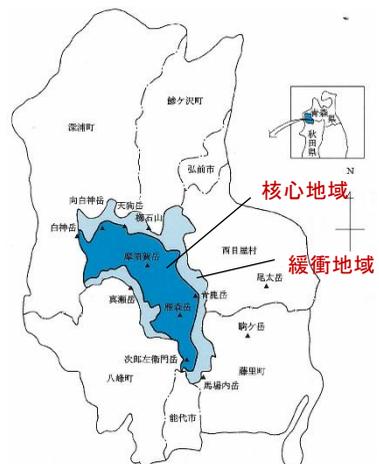
資料：県環境生活部、県観光国際戦略局「令和2年青森県観光入込客統計」

⑦ 世界自然遺産白神山地の状況

白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山岳地帯の総称である。このうち、原生的なブナ林で占められている区域16,971haが1993年12月に世界遺産として登録されており、青森県側の面積は、その約4分の3を占め、12,627haとなっている。

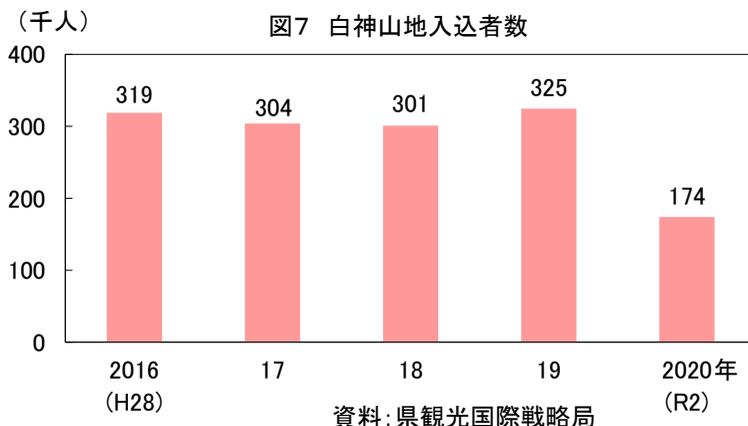
白神山地には、赤石川、追良瀬川、笹内川などの河川があり、各河川の流域を分ける尾根沿いに、白神岳(1,235m)、向白神岳(1,250m)、魔須賀岳(1,012m)、天狗岳(958m)など、標高1,000mから1,200m級の山々が連なっている。（図6）

図6 白神山地の概要図



白神山地の特徴は、人為の影響をほとんど受けていない原始的なブナ林が東アジア最大級の規模で分布していることにある。ブナ林には、ブナーミズナラ群落をはじめ多種多様な植物が生育し、水源涵養機能や地表侵食防止機能が高く、多面的な機能を有している。また、高緯度にもかかわらず、ツキノワグマ、ニホンザル、イヌワシ等をはじめ多くの動物が生息し、特に世界遺産地域は、最も良く原生状態が保たれており、その価値は、地球的に見ても極めて重要であると評価されている。

世界自然遺産白神山地の持続可能な利用に向けて、遺産地域周辺における自然を生かしたエコツーリズム等が推進されており、入込者数は近年 30 万人台で推移していたが、2020 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、約 17 万 4 千人となっている。(図 7)



⑧ 森林の状況

ア 森林の現況

本県の森林面積(2021年)は、63万3,122haで県土面積の65.6%を占めている。そのうち、国有林(官行造林含む)は、39万4,785haで全森林の62.4%、民有林(公有林含む)は23万8,337haで37.6%を占めている。

森林蓄積量は1億2,637万 m^3 で、そのうち国有林は7,325万6,000 m^3 (全体の58%)、民有林は5,311万4,000 m^3 (同42%)となっており、針広別では、針葉樹が全体の64.3%、広葉樹が35.7%となっている。針葉樹ではスギが最も多く針葉樹全体の6割以上を占め、次いでヒバ、アカマツ、カラマツの順となっている。

(次頁表8)

表 8 森林の現況 2021年 (R3)

(単位 ha、千m³、m³/ha)

| 区 分 | 総 数 | 国 有 林 | 民 有 林 |
|------------------------------------|---------|---------|---------|
| 森 林 面 積 (ha) | 633,122 | 394,785 | 238,337 |
| 森 林 蓄 積 量 (千m ³) | 126,370 | 73,256 | 53,114 |
| 針 葉 樹 (〃) | 81,209 | 39,378 | 41,831 |
| ス ギ (〃) | 51,132 | 20,072 | 31,060 |
| ア カ マ ツ (〃) | 9,341 | 2,357 | 6,984 |
| ク ロ マ ツ (〃) | 2,898 | 882 | 2,016 |
| ヒ バ (〃) | 13,321 | 13,069 | 252 |
| カ ラ マ ツ (〃) | 3,864 | 2,357 | 1,507 |
| そ の 他 (〃) | 654 | 641 | 12 |
| 広 葉 樹 (〃) | 45,158 | 33,875 | 11,283 |
| 無立木地、除地等 (〃) | 3 | 3 | 0 |
| 1 ha 当 たり 蓄 積 (m ³ /ha) | 200 | 186 | 223 |

※民有林のその他広にはブナ・ナラ類を含む。 資料：県農林水産部

※単位未満の四捨五入の関係で、合計と内訳が一致しない。

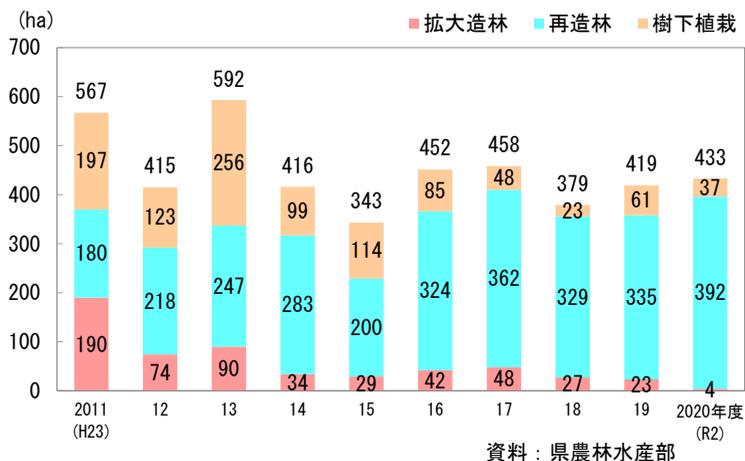
イ 森林の造成状況の推移

木材価格の長期低迷や、林業諸経費の増大等により、民有林造林面積は1970年の6,054haをピークに減少し、近年は300～500ha台で推移している。

民有林の再造林は増加傾向にあり、5年連続で300haを超えている。(図

9)

図 9 民有林造林実績の推移



ウ 企業の森づくりの状況

企業の社会貢献活動の一環として、森林整備（企業の森づくり）の取組が各地で進んでいる。本県においても、企業等が森林整備・保全活動に参加しやすい環

境を整備するため、企業等への情報提供や森林所有者との調整などを行っており、これまで、24の県内企業等と森林づくり協定を締結している。

さらに、2018年度からは、企業等が持つ様々な技術・知識を活用し、森林・林業の魅力発信や担い手の確保・育成など、間接的に将来の安定的な森林整備につながる取組についても対象とし、これまで3企業と協定を締結している。

⑨ 有害鳥獣の状況

ツキノワグマの出没件数は増加傾向にあり、特に2016年度からは急増し、約400件数以上で推移している。ニホンジカは、全国で生息数が増加しており、本県においては、従来生息していないとされていたが、近年目撃が増加している。

(表10)

このほか、ニホンザルや生息域が拡大しているアライグマ等による農作物被害が発生しており、被害拡大が懸念されている。

表10 ツキノワグマ及びニホンジカの目撃・捕獲数

| 獣類 | 年度 | (頭) | | | | |
|--------|-------|------|------|------|------|------------|
| | | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020年度(R2) |
| ツキノワグマ | 出没件数 | 498 | 424 | 395 | 450 | 423 |
| | 有害捕獲数 | 154 | 260 | 152 | 301 | 163 |
| ニホンジカ | 目撃頭数 | 160 | 222 | 216 | 350 | 382 |
| | 捕獲等数※ | 28 | 52 | 49 | 60 | 104 |

※ロードキル等による死亡個体を含む

資料：県環境生活部

⑩ 狩猟免許取得者の状況

本県では狩猟者の減少と高齢化が進んでいるが、狩猟免許の新規取得者は年々増加する傾向にあり、2020年度は224名が狩猟免許を取得した。(表11)

表11 狩猟免許取得者数

| 区分 | 網 | わな | 第1種 猟銃 | 第2種 猟銃 | 計 | | |
|------------|----|-----|-----------|-----------|-------|------|----|
| | | | | | (新規) | (女性) | |
| 2016 | 44 | 324 | 1,118 | 18 | 1,504 | 159 | 35 |
| 2017 | 56 | 370 | 1,192 | 16 | 1,634 | 151 | 66 |
| 2018 | 74 | 418 | 1,122 | 13 | 1,627 | 145 | 70 |
| 2019 | 79 | 448 | 1,125 | 15 | 1,667 | 168 | 68 |
| 2020年度(R2) | 87 | 514 | 1,169 | 15 | 1,785 | 224 | 74 |

資料：県環境生活部

(2) 脱炭素・循環

| | 青森県（全国順位） | 全国 |
|------------------------|-------------|-------|
| 1人1日当たりのごみの排出量（2019年度） | 1,003g（43位） | 918g |
| ごみのリサイクル率（ ” ） | 14.3%（44位） | 19.6% |
| 1人1日当たりのごみの最終処分量（ ” ） | 108g（38位） | 82g |

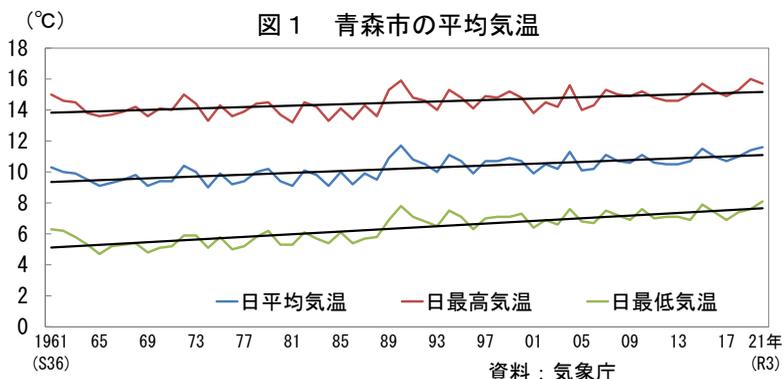
資料：県環境生活部

① 地球温暖化対策

ア 本県における影響

仙台管区気象台発行の「東北地方の気候の変化」（2016年12月発行、2020年4月更新）によれば、青森市の年平均気温は100年あたり1.9℃の割合で上昇しているほか、夏日日数は10年あたり3.2日の割合で増加、冬日日数は10年あたり3.5日の割合で減少しており、本県においても、地球温暖化による気候変動が生じている。（図1）

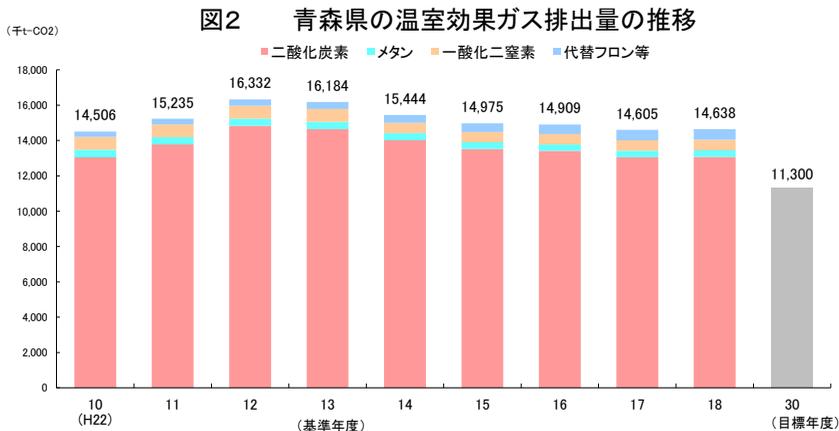
地球温暖化は、熱中症や感染症の増加など県民の健康や、リンゴ栽培適地の移動など農林水産業への影響があるほか、本県の貴重な自然資源が失われていく原因にもなる。



イ 本県の温室効果ガス排出量の現況

全国の傾向と同様、2010年度以降は上昇傾向で、2013年度から減少に転じており、2018年度は14,638千t-CO₂と前年度比0.2%の増加となった。また、青森県地球温暖化対策推進計画の基準年度である2013年度比では9.6%の減少となっている。

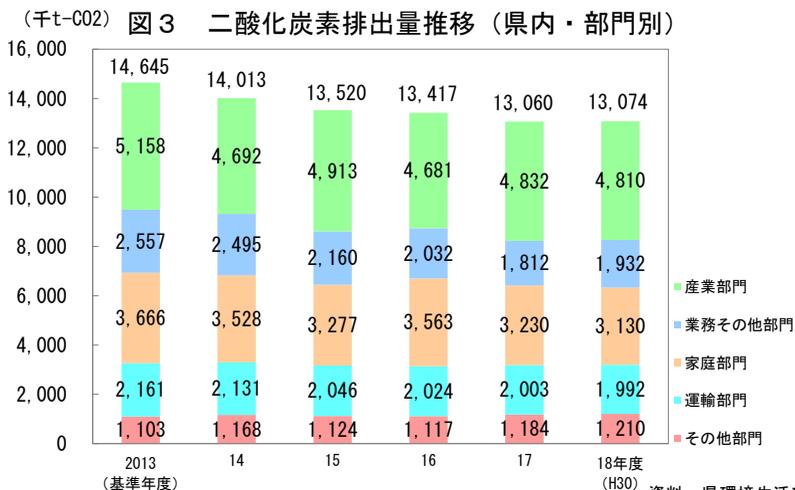
2030年度の目標値達成に向け、引き続き温室効果ガスの排出抑制対策を強化していく必要がある。（次頁図2）



資料：県環境生活部「青森県地球温暖化対策推進計画」、「青森県における2018年度（平成30年度）温室効果ガス排出状況について」を基に県企画政策部が作成

温室効果ガス排出量のうち二酸化炭素排出量の推移を見ると 2018 年度は 13,074 千 t-CO₂ で、前年度比で 0.1% 増加、計画の基準年度である 2013 年度比で 10.7% 減少している。（図3）

前年度と比較すると、その他部門において、廃棄物の処理に伴う非エネルギー起源二酸化炭素排出量が 12.7% 増加したが、大きな割合を占める産業部門及び家庭部門における排出量が減少したことから、ほぼ横ばいとなった。



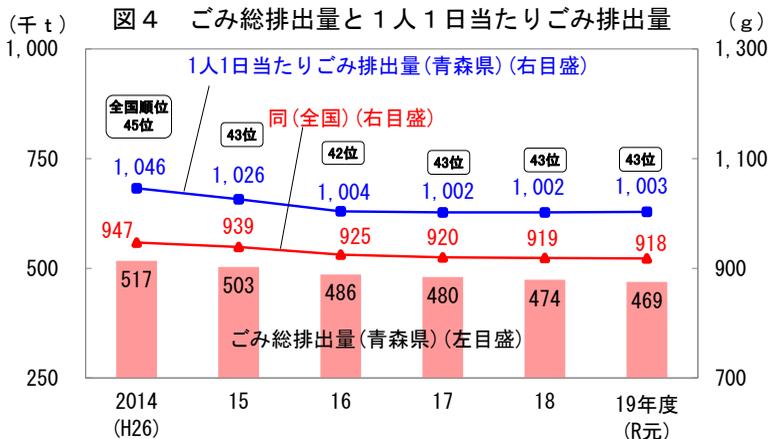
資料：県環境生活部

② 廃棄物・リサイクル

ア ごみ（一般廃棄物）の排出量

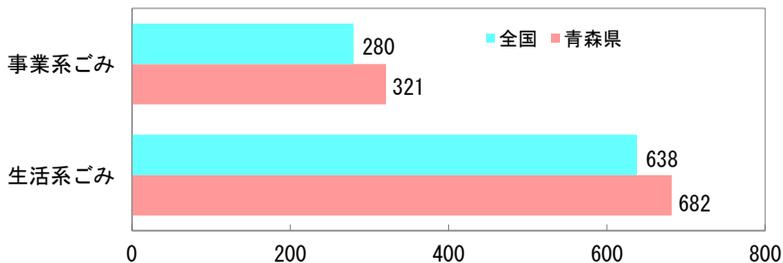
本県のごみ排出量は、2014年度から減少しており、2019年度実績では46万9,430tと前年度と比較して約0.9%減少している。

県民1人1日当たりのごみ排出量は1,003gで、全国値の918gより85g多く、依然として全国値よりも多い状況が続いている。（図4）



内訳では、生活系ごみ・事業系ごみのいずれも全国値と比べて多くなっている。（図5）

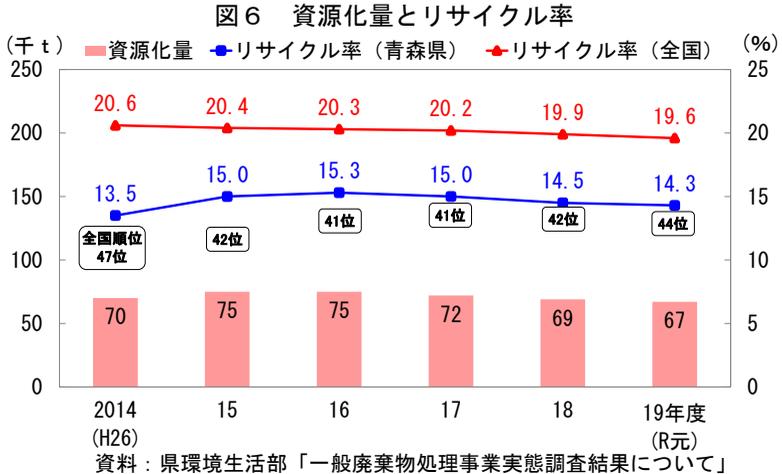
図5 1人1日当たりのごみ排出量の内訳（2019年度）



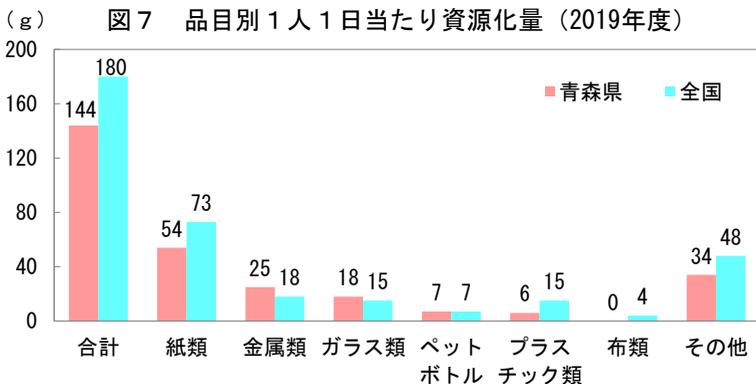
資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」（g）を基に県企画政策部が作成

イ リサイクルの状況

2019年度の本県のごみの総資源化量は6万7,165tであり、前年度と比較して約2.1%減少している。リサイクル率は14.3%で、前年度に比べ0.2ポイント低下し、全国値の19.6%と比べると5.3ポイント低く、依然として全国との差は大きい。(図6)



1人1日当たりの種類別の資源化量を全国と比較すると、紙類、プラスチック類について大きな開きがみられる。(図7)



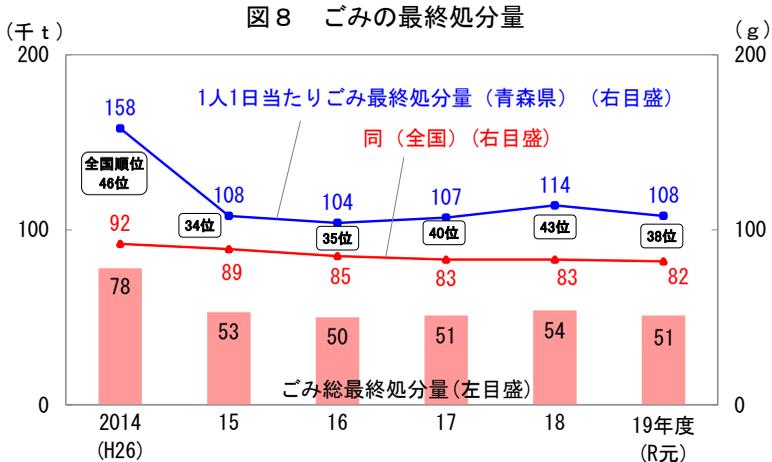
エ ごみの最終処分量の状況

不燃ごみや、ごみを焼却した後の燃え殻などは最終処分される。

2019年度における本県のごみ総最終処分量は、5万706tと前年度と比較して約5.6%減少している。

県民1人1日当たりのごみ最終処分量は108gで、前年度に比べ6g減少しているが、全国値の82gと比べて26g多く、全国値よりも多い状況が続いている。

(図8)



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

オ ごみ処理経費

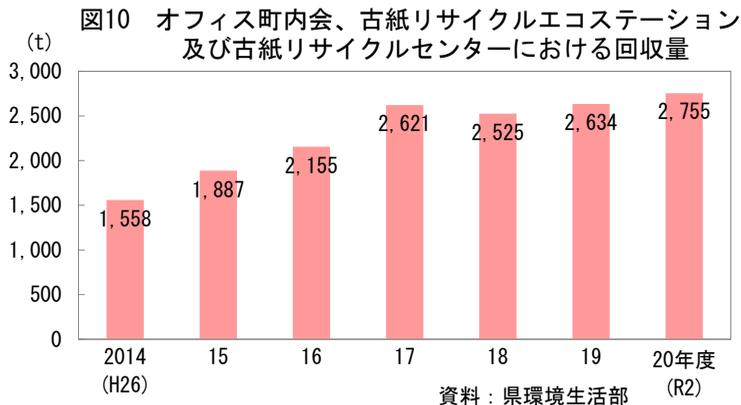
2019年度における県内市町村（一部事務組合含む。）の一般廃棄物処理事業経費のうち、ごみ処理事業経費は20,105千円、処理対象人口1人当たりの年間のごみ処理経費は約15,700円となっている。(図9)



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

カ 民間事業者等における取組

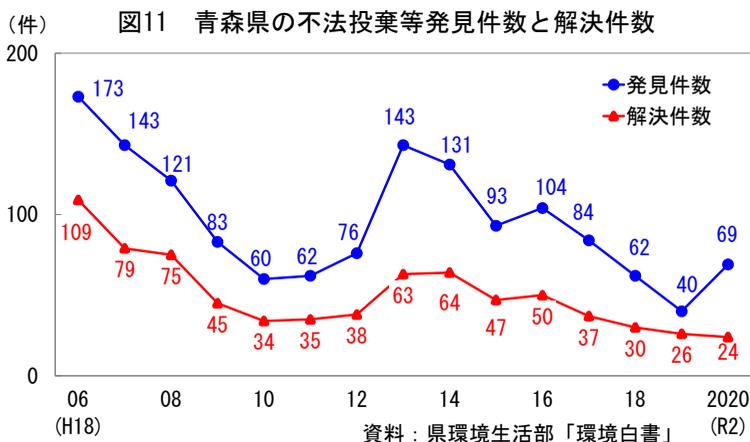
行政による集団回収のほか、レジ袋の無料配布取りやめ、オフィス町内会の設立、古紙リサイクルエコステーションや古紙リサイクルセンターの設置など、民間事業者等によるごみ削減やリサイクルの取組が進んでいる。(図 10)



キ 産業廃棄物の不法投棄等の状況

県内の産業廃棄物の不法投棄等発見件数は近年減少傾向であり、発見件数のうち、発見した年度内に解決された件数は約5割程度で推移している。(図 11)

なお、県境不法投棄事案については、樹木の管理などの「自然再生」、跡地の利活用による「地域の振興」、処理施設等における資料展示やウェブによる「情報発信」の3つの方向性から、跡地の環境再生に向けた施策を展開している。



4 教育・人づくり分野

(1) 教育

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の大学等進学率（2021年3月卒）

青森県 49.4%（男 46.1% 女 52.8%） 全国平均 57.4%

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の就職率（ " ）

青森県 26.5%（男 32.4% 女 20.2%） 全国平均 15.7%

就職者のうち県内就職割合 58.7% 県外就職割合 41.3%

※大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」

① 学校数・在学者数・教員数の推移

少子化に伴い、県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の園児・児童・生徒数は年々減少している。なお、2015年4月の制度改正により新設された「幼保連携型認定こども園」については、既存の幼稚園や保育所からの移行が進み、年々増加している。（表1）

表1 学校数・在学者数・教員数

| 区 分 | | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 2021年度 (R3) |
|-----------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| 幼稚園 | 園 数 | 100 | 94 | 88 | 88 | 87 | 86 |
| | 園児数 | 6,013 | 5,734 | 5,078 | 4,877 | 4,632 | 4,287 |
| | 教員数 | 686 | 678 | 619 | 637 | 636 | 665 |
| 幼保連携型 認定こども園 | 園 数 | 158 | 182 | 209 | 233 | 239 | 245 |
| | 園児数 | 13,438 | 15,274 | 17,338 | 18,828 | 18,875 | 18,884 |
| | 教員数 | 2,558 | 2,945 | 3,353 | 3,748 | 3,843 | 3,923 |
| 小学校 | 学校数 | 293 | 289 | 287 | 282 | 269 | 263 |
| | 児童数 | 60,644 | 59,233 | 58,394 | 56,886 | 55,717 | 54,460 |
| | 教員数 | 4,770 | 4,753 | 4,749 | 4,677 | 4,536 | 4,464 |
| 中学校 | 学校数 | 165 | 161 | 162 | 160 | 159 | 157 |
| | 生徒数 | 35,505 | 33,921 | 32,137 | 31,052 | 30,206 | 29,940 |
| | 教員数 | 3,250 | 3,148 | 3,068 | 3,030 | 3,001 | 2,970 |
| 高等学校 | 学校数 | 80 | 78 | 77 | 76 | 77 | 77 |
| | 生徒数 | 37,109 | 36,327 | 35,350 | 34,117 | 32,658 | 31,087 |
| | 教員数 | 3,121 | 3,107 | 3,082 | 3,039 | 2,999 | 2,893 |
| 特別支援 学校 | 学校数 | 20 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| | 生徒数 | 1,690 | 1,650 | 1,664 | 1,693 | 1,700 | 1,674 |
| | 教員数 | 1,065 | 1,068 | 1,061 | 1,065 | 1,084 | 1,097 |

※ 高等学校では全日制、定時制、通信制について記載。併置している学校は1校として計上している。

※ 高等学校・特別支援学校の生徒数は専攻科を除いている。

※ 特別支援学校の生徒数には、幼児・児童・生徒が含まれている。

※ 表中の教員数は本務者のみ計上している。

資料：文部科学省「学校基本調査」

② 県立高等学校の規模等（学科、定員）

表2 2022年度県立高等学校全日制・定時制・通信制・八戸水産専攻科 募集人員

| 学校名 | 学科 | 募集人員（人） | 学校名 | 学科 | 募集人員（人） | 学校名 | 学科 | 募集人員（人） |
|--------|--------|---------|---------|----------|---------|----------|----------|---------|
| 青森 | 普通 | 240 | 柏木農業 | 生物生産 | 35 | 田名部 | 普通 | 200 |
| 青森西 | 普通 | 240 | 環境工学 | 35 | 大湊 | 総合 | 160 | |
| 青森東 | 普通 | 240 | 食品科学 | 35 | 大間 | 普通 | 70 | |
| 青森北 | 普通 | 160 | 生活科学 | 35 | むつ工業 | 機械 | 35 | |
| | スポーツ科学 | 40 | 弘前工業 | 機械 | 35 | | 電気 | 35 |
| 青森南 | 普通 | 160 | | 電気 | 35 | | 設備・エネルギー | 35 |
| | 外国語 | 40 | | 電子 | 35 | 八戸 | 普通 | 240 |
| 青森中央 | 総合 | 200 | | 情報技術 | 35 | 八戸東 | 普通 | 200 |
| 浪岡 | 普通 | 70 | | 土木 | 35 | | 表 | 30 |
| 青森工業 | 機械 | 35 | 弘前実業 | 建築 | 35 | 八戸北 | 普通 | 240 |
| | 電気 | 35 | | 商業 | 80 | 八戸西 | 普通 | 200 |
| | 電子 | 35 | | 情報処理 | 40 | | スポーツ科学 | 40 |
| | 情報技術 | 35 | | 家庭科学 | 40 | 三戸 | 普通 | 40 |
| | 建築 | 35 | | 服飾デザイン | 40 | 名久井農業 | 生物生産 | 35 |
| | 都市環境 | 35 | | スポーツ科学 | 40 | | 環境システム | 35 |
| 青森商業 | 商業 | 160 | 三本木 | 普通 | 240 | 八戸水産 | 海洋生産 | 35 |
| | 情報処理 | 40 | 三沢 | 普通 | 240 | | 水産食品 | 35 |
| 五所川原 | 普通 | 160 | 野辺地 | 普通 | 80 | | 水産工学 | 35 |
| | 理数 | 40 | 七戸 | 総合 | 120 | 八戸工業 | 機械 | 35 |
| 木造 | 総合 | 160 | 七百石 | 普通 | 80 | | 電気 | 35 |
| 鯉ヶ沢 | 普通 | 40 | 六ヶ所 | 食物調理 | 40 | | 電子 | 35 |
| 五所川原農林 | 生物生産 | 35 | 三本木農業恵拓 | 普通 | 70 | | 土木 | 35 |
| | 森林科学 | 35 | | 植物科学 | 35 | 八戸商業 | 建築 | 35 |
| | 環境土木 | 35 | | 動物科学 | 35 | | 材料技術 | 35 |
| | 食品科学 | 35 | | 環境工学 | 35 | | 商業 | 80 |
| 五所川原工科 | 普通 | 70 | | 食品科学 | 35 | | 情報処理 | 40 |
| | 機械 | 35 | 十和田工業 | 機械・エネルギー | 35 | 県立全日制計 | | 7,365 |
| | 電子機械 | 35 | | 電気 | 35 | 北斗 | 普通（午前） | 40 |
| | 電気 | 35 | | 電子 | 35 | | 普通（午後） | 40 |
| 弘前 | 普通 | 240 | | 建築 | 35 | | 普通（夜間） | 40 |
| 弘前中央 | 普通 | 240 | 三沢商業 | 商業 | 80 | 五所川原 | 普通（夜間） | 40 |
| 弘前南 | 普通 | 240 | | 情報処理 | 40 | 尾上総合 | 総合（I部） | 40 |
| 黒石 | 普通 | 120 | | | | | 総合（II部） | 40 |
| | 情報デザイン | 40 | | | | | 総合（III部） | 40 |
| | 看護 | 40 | | | | 三沢 | 普通（夜間） | 40 |
| | | | | | | 田名部 | 普通（夜間） | 40 |
| | | | | | | 八戸中央 | 普通（午前） | 40 |
| | | | | | | | 普通（午後） | 40 |
| | | | | | | | 普通（夜間） | 40 |
| | | | | | | 県立定時制計 | | 480 |
| | | | | | | 北斗 | 普通 | 200 |
| | | | | | | 尾上総合 | 普通 | 150 |
| | | | | | | 八戸中央 | 普通 | 150 |
| | | | | | | 県立通信制計 | | 500 |
| | | | | | | 八戸水産 | 漁業 | 10 |
| | | | | | | | 機関 | 10 |
| | | | | | | 八戸水産専攻科計 | | 20 |

資料：県教育庁

③ 新学習指導要領の導入スケジュール

学習指導要領が改訂され、外国語教育の充実・強化や情報活用能力の育成に向けて、小学校における中学年の外国語活動や高学年の外国語科の導入、プログラミング教育の必修化、ICTを活用した学習活動の充実などへ対応するための取組を進めている。

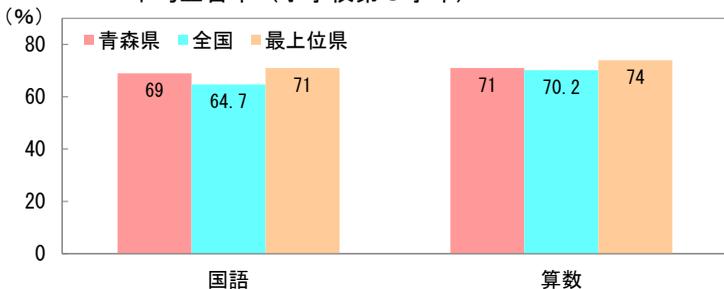
文部科学省の示す今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール

| | 2016 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 2022年度 | |
|------|-----------|-------|-------------|----|-------------|----|--------|----------------|
| 幼稚園 | | | 2018年度～全面実施 | | | | | |
| 小学校 | 学習指導要領の改訂 | 周知・徹底 | 〔移行期間〕 | | 2020年度～全面実施 | | | |
| 中学校 | | | 〔移行期間〕 | | 2021年度～全面実施 | | | |
| 高等学校 | | | 周知・徹底 | | 〔移行期間〕 | | | 2022年度～年次進行で実施 |
| | | | 学習指導要領の改訂 | | | | | |

④ 全国学力・学習状況調査に見る本県の児童生徒の学力

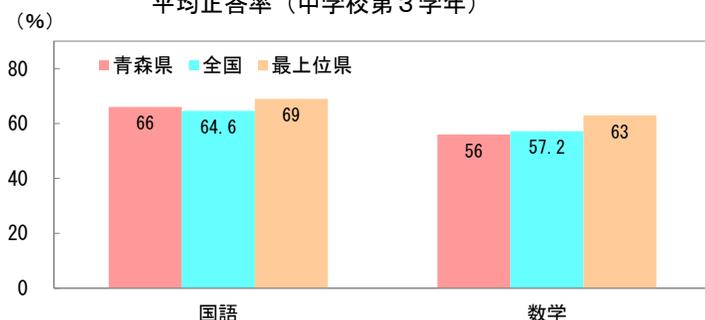
2021年度における本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、教科に関する調査（対象：小学校第6学年及び中学校第3学年）の平均正答率を比較すると、小学校は国語が全国の平均正答率を上回り、算数は全国の平均正答率と同程度であり、中学校は国語が全国の平均正答率を上回っているものの、数学は全国の平均正答率を下回っている。（図3、次頁図4）

図3 令和3年度全国学力・学習状況調査における平均正答率（小学校第6学年）



資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

図4 令和3年度全国学力・学習状況調査における平均正答率（中学校第3学年）



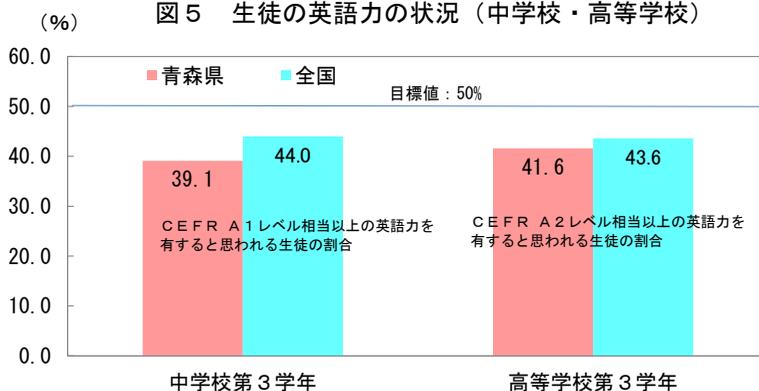
資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

⑤ 本県の生徒の英語力の状況

本県の中学校第3学年に属する生徒のうちCEFR※ A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合と、高等学校第3学年に属する生徒のうちCEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合はともに全国平均より低く、国の掲げる目標値（50%）に達していない。（図5）

※ CEFR：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1レベルは実用英語技能検定における準2級～3級相当、A2レベルは同検定における2級～準2級相当。

図5 生徒の英語力の状況（中学校・高等学校）



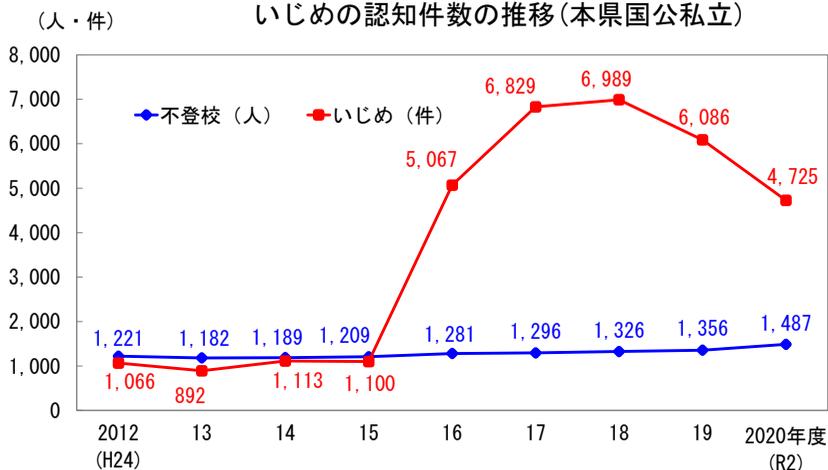
資料：文部科学省 2019（令和元）年度英語教育実施状況調査

⑥ 本県の児童生徒のいじめ・不登校の状況

本県小・中学校における不登校児童生徒数は、2013年以降、増加傾向にある。

また、小・中学校におけるいじめの認知件数は、いじめの早期発見や積極的な認知を働きかけてきたところ、2016年度から大幅に増えていたが、2019年度から減少に転じている。また、いじめの早期発見・解消に向けて、スクールカウンセラーの配置など相談体制の充実に取り組んでいる。（図6、表7）

図6 小・中学校における不登校児童生徒数、
いじめの認知件数の推移（本県国公立）



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

表7 スクールカウンセラー配置・派遣学校数及び延べ相談者数（公立小・中学校）

| 年度 | 2012 (H24) | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 2020 (R2) |
|-----------------------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|
| スクールカウンセラー配置・派遣学校数（校） | 126 | 126 | 144 | 161 | 186 | 275 | 360 | 430 | 416 |
| スクールカウンセラー延べ相談者数（人） | 10,712 | 12,205 | 15,148 | 17,293 | 21,881 | 24,301 | 24,104 | 20,449 | 22,244 |

資料：県教育庁

⑦ 職場体験・インターンシップ実施状況

公立中学校の職場体験実施校は 2019 年度において 96.8%と前年度より減少した。年間 5 日以上実施率は 2.0%と前年度より 3.3 ポイント減少し、全国平均を大きく下回っている。

また、公立高等学校におけるインターンシップ実施校の割合は前年度より増加したものの、全国平均を下回る状況が続いている。(表 8)

表 8 職場体験・インターンシップ実施状況

(単位：校、%)

| 区 分 | 2015 (H27) | 16 | 17 | 18 | 2019年度 (R1) |
|-------------------|---------------|------|------|------|----------------|
| 職場体験実施校 (青森県) | 157 | 153 | 153 | 150 | 149 |
| 職場体験実施率 (青森県) | 98.1 | 95.6 | 98.1 | 96.2 | 96.8 |
| 職場体験実施率 (全国) | 98.3 | 98.1 | 98.6 | 97.7 | 97.9 |
| 年間 5 日以上実施率 (青森県) | 5.1 | 5.2 | 3.9 | 5.3 | 2.0 |
| 年間 5 日以上実施率 (全国) | 12.7 | 12.8 | 12.2 | 11.9 | 12.0 |
| インターンシップ実施校 (青森県) | 54 | 51 | 52 | 51 | 53 |
| インターンシップ実施率 (青森県) | 77.1 | 73.9 | 77.6 | 77.3 | 81.5 |
| インターンシップ実施率 (全国) | 81.8 | 83.7 | 84.8 | 84.9 | 85.0 |

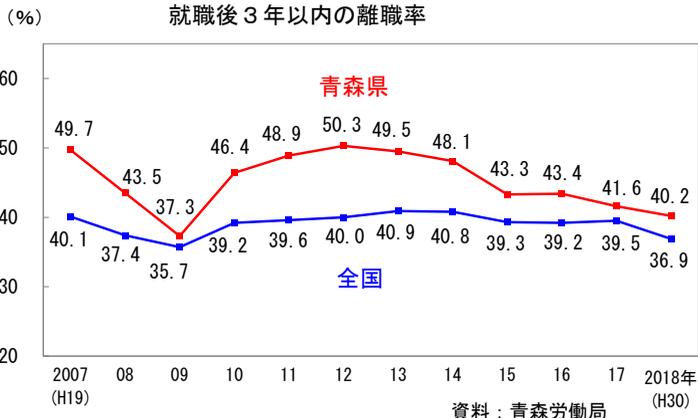
※ 職場体験は公立中学校、インターンシップは公立高等学校 (全日制・定時制) の実施状況。
 ※ 実施率は学校数に対する実施校の割合。

資料：国立教育政策研究所「職場体験・インターンシップ実施状況等調査」

⑧ 県内企業における新規高等学校卒業者の離職率

県内企業における新規高等学校卒業者の就職後 3 年以内の離職率は、2012 年以降減少傾向にあるが、全国平均より高い状況が続いている。(図 9)

図 9 県内企業における新規高等学校卒業者の就職後 3 年以内の離職率



⑨ 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率

近年、本県の高等学校卒業者の大学等進学率・就職率は、全国と同様大学等進学率は上昇傾向、就職率は減少傾向にある。2021年3月卒の生徒は全国的に大学等へ進学する傾向が高まったが、本県においてはその傾向がより強く表れている。

本県では経済的な要因等もあり、高等学校卒業後に就職を希望する生徒の割合が高いが、一方で景気動向などの経済情勢の変化や、企業の雇用環境の動向などにより、大学等進学率・就職率に変動が見られる。(図10、図11)

図10 高等学校卒業者の大学等進学率

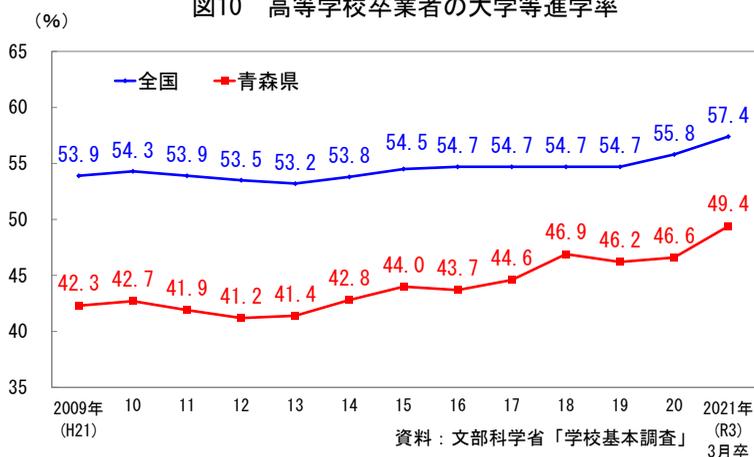
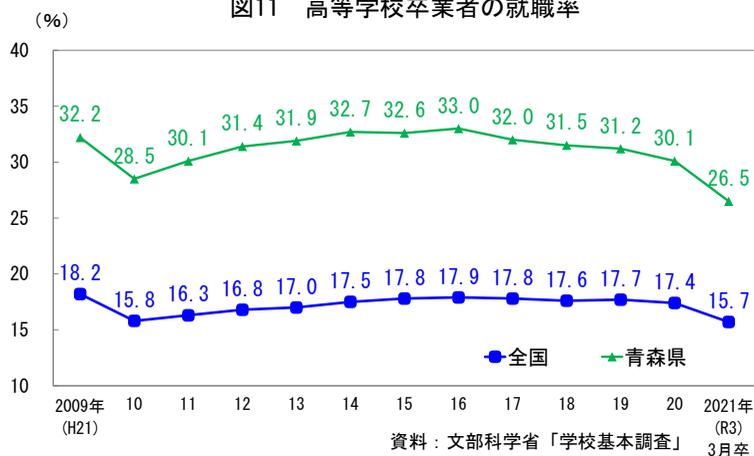


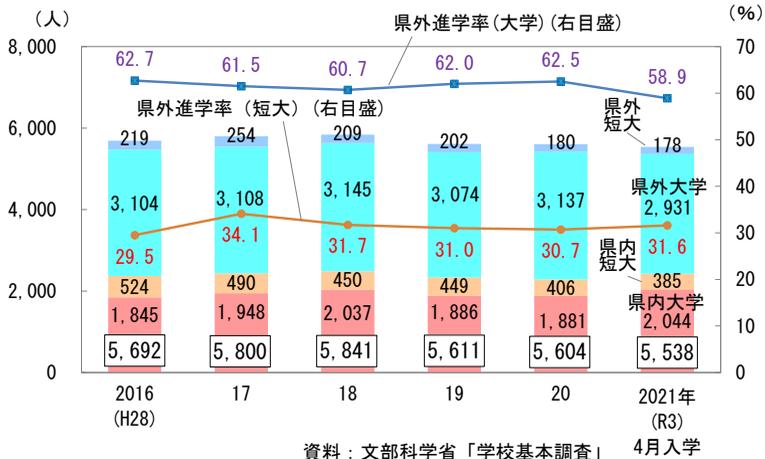
図11 高等学校卒業者の就職率



⑩ 県内高校出身者の大学・短期大学への入学状況

県内の高等学校を卒業し、2021年4月に大学・短期大学へ入学した者は、5,538人であり、前年から66人減少した。大学入学者の県外進学率は、近年60%程度となっている。(図12)

図12 県内高校出身者の大学・短大への入学状況



⑪ 高等教育機関在学者数の推移

2021年度の県内の大学等の高等教育機関数は、大学が10校（県外に本部を置く北里大学を除く）、短期大学が5校、高等専門学校が1校の計16校、在学者数は1万8,475人となっている。

県内の高等教育機関在学者数は、おおむね1万8,000人台で推移している。

(図13、次頁表14)

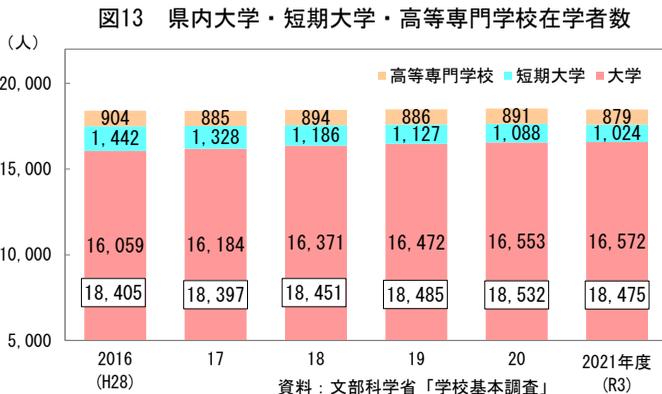
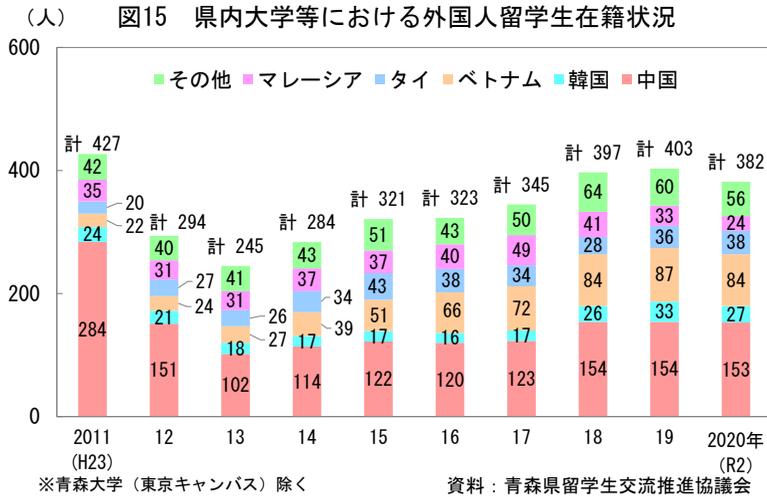


表14 青森県内の大学・短期大学等(2022年4月現在)

| 区分 | 名称 | 学部 | 学 科 |
|----------------------------|-------------------|---|---|
| 大 学 | 弘前大学 | 人文社会科学部 教育学部 医学部 理工学部 | 文化創生課程・社会経営課程 学校教育教員養成課程・養護教諭養成課程 医学科・保健学科・心理支援科学科 数物科学科、物質創成化学科、地球環境防災学科、 電子情報工学科、機械科学科、自然エネルギー学科 生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、 国際園芸農学科、地域環境工学科 |
| | | 農学生命科学部 | 人文社会科学専攻 人文社会科学専攻 教職実践専攻 医科学専攻 保健学専攻 理工学専攻 機能創成科学専攻、安全システム工学専攻 農学生命科学専攻 地域社会専攻 地域社会専攻 地域リノベーション専攻、産業創成科学専攻 生物生産科学専攻、生物資源科学専攻、 地域環境創生学専攻 |
| | (大学院) | 人文社会科学研究科(修士課程) 教育学研究科(専門職学位課程) 医学研究科(博士課程) 保健学研究科(博士前期/後期課程) 理工学研究科(博士前期課程) 理工学研究科(博士後期課程) 農学生命科学研究科(修士課程) 地域社会研究科(博士後期課程) 地域共創科学研究科(修士課程) 岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程) | 人文社会科学専攻 教職実践専攻 医科学専攻 保健学専攻 理工学専攻 機能創成科学専攻、安全システム工学専攻 農学生命科学専攻 地域社会専攻 地域社会専攻 地域リノベーション専攻、産業創成科学専攻 生物生産科学専攻、生物資源科学専攻、 地域環境創生学専攻 |
| | 青森県立保健大学 | 健康科学部 | 看護学科、理学療法学科、社会福祉学科、栄養学科 |
| | (大学院) | 健康科学研究科(博士前期/後期課程) | 保健科学専攻 |
| | 青森公立大学 | 経営経済学部 | 経営学科、経済学科、地域みらい学科 |
| | (大学院) | 経営経済学研究科(博士前期/後期課程) | 経営経済学専攻 |
| | 北里大学 | 獣医学部 | 獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科 |
| | (大学院) | 獣医学系研究科(修士課程) 獣医学系研究科(博士課程) | 動物資源科学専攻、生物環境科学専攻 獣医学専攻、動物資源科学専攻 |
| | 青森大学 | 総合経営学部 社会学部 ソフトウェア情報学部 薬学部 | 経営学科 社会学科 ソフトウェア情報学科 薬学科 |
| 青森中央学院大学 | 経営法学部 看護学部 | 経営法学科 看護学科 | |
| (大学院) | 地域マネジメント研究科(修士課程) | 地域マネジメント専攻 | |
| 私 立 大 学 | 柴田学園大学 | 生活創生学部 | 健康栄養学科、こども発達学科 |
| | 弘前学院大学 | 文学部 社会福祉学部 看護学部 | 英語・英米文学科、日本語・日本文学科 社会福祉学科 看護学科 |
| | (大学院) | 文学研究科(修士課程) 社会福祉学研究科(修士課程) | 日本文学専攻 人間福祉専攻 |
| | 弘前医療福祉大学 | 保健学部 | 看護学科 医療技術学科(作業療法専攻、言語聴覚専攻) |
| | 八戸工業大学 | 工学部 感性デザイン学部 | 工学科 感性デザイン学科 |
| | (大学院) | 工学研究科(博士前期/後期課程) | 機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻 |
| | 八戸学院大学 | 地域経営学部 健康医療学部 | 地域経営学科 人間健康学科、看護学科 |
| | 青森明の星短期大学 | | 子ども福祉未来学科 |
| | 青森中央短期大学 | | 食物栄養学科、幼児保育学科、専攻科福祉専攻 |
| | 柴田学園大学短期大学部 | | 生活科、保育科 |
| 弘前医療福祉大学短期大学部 | | 救急救命学科、介護福祉学科、口腔衛生学科 | |
| 八戸学院短期大学部 | | 幼児保育学科、介護福祉学科 | |
| 独立行政法人国立高等専門学校機構八戸工業高等専門学校 | | 産業システム工学科(本科) 産業システム工学専攻(専攻科) | |

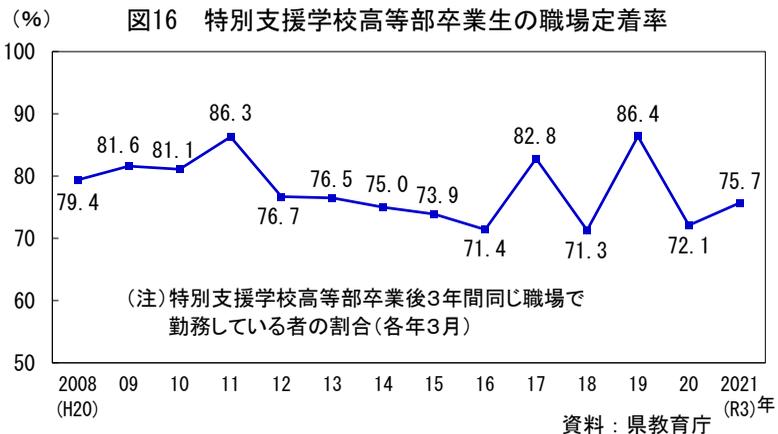
⑫ 留学生の在学状況

県内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する外国人留学生は2020年5月1日現在で382人となっており、うち中国からの留学生が全体の40.1%を占めている。教育機関のPR強化等により、2013年以降増加傾向にあり、東日本大震災前の水準に回復していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国制限が影響し、2020年は減少に転じている。(図15)



⑬ 特別支援学校高等部卒業生の職場定着率

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率は、70%以上を維持している。(図16)

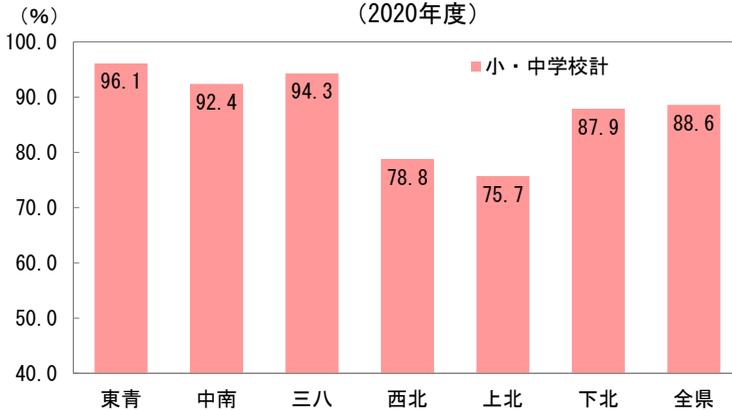


⑭ 学校支援ボランティアの受入状況

県内の公立小・中学校で、学校の教育活動を支援するためのボランティア（学校支援ボランティア）を受け入れている割合は、2020年度において88.6%であり、地域ぐるみで学校を支援する活動が広がっている。（図17）

学校支援ボランティア活動の分野別の受入割合は、多い順に「環境サポーター」（85.8%）、「ゲストティーチャー」（80.4%）、「学校行事の補助」（66.1%）、「学習アシスタント」（53.0%）、「施設メンテナー」（12.9%）となっている。

図17 県内小・中学校のボランティア受入状況
(2020年度)



資料：県教育庁「学校と地域との連携に関するアンケート調査」

⑮ 図書館の利用状況

2021年4月1日現在、県内には34の図書館がある。図書を借用して館外に持ち出した者（帯出者）の延べ人数は、2008年度と比較して2018年度は14.4%減少しているが、貸出冊数は1.4%増加している。（表18）

表18 図書館の利用状況

| 区分 | 2008 | 2011 | 2015 | 2018年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 登録者数（人） | 190,338 | 180,394 | 140,097 | 131,531 |
| うち児童 | 16,470 | 22,861 | 16,871 | 15,939 |
| 帯出者数（人） | 1,142,932 | 1,158,017 | 1,031,890 | 978,462 |
| うち児童 | 161,252 | 144,897 | 154,779 | 135,843 |
| 貸出冊数（冊） | 3,550,526 | 3,633,237 | 3,573,857 | 3,599,813 |
| うち児童書 | 633,814 | 650,672 | 739,471 | 908,526 |

※ 登録者数、帯出者数等で児童数内訳を把握できない図書館あり。

資料：文部科学省「社会教育調査」

(2) 人づくり、移住・交流

| 移住相談・情報提供件数（2020年度） | 17,219件 | |
|---------------------|-----------------------|------------|
| 在留外国人数 | 青森県 | 全国 |
| （2020年末） | 6,165人（男2,418,女3,747） | 288万7,116人 |
| うち中国 | 1,139人（男441,女698） | 77万8,112人 |
| 韓国 | 714人（男337,女377） | 42万6,908人 |
| ベトナム | 2,007人（男665,女1,342） | 44万8,053人 |

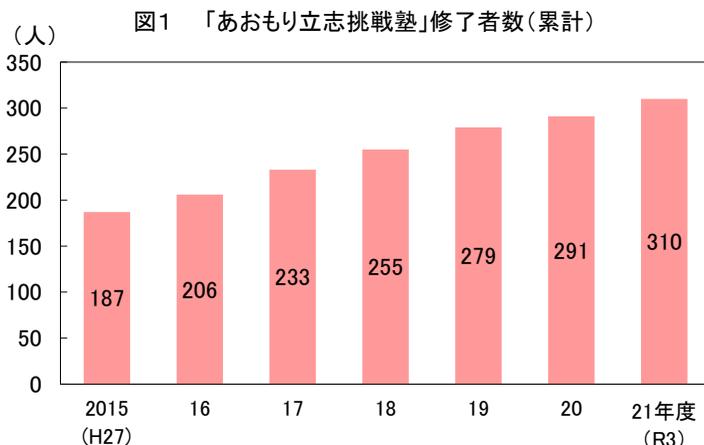
資料：県企画政策部、法務省「在留外国人統計」

① あおもり立志挑戦塾の修了者数

「あおもり立志挑戦塾」（寺島実郎塾長）は、本県の経済や地域づくりをけん引していく気概とチャレンジ精神、自由で柔軟な発想力、そして広い視野を持って、何事にも果敢に挑戦していく人材の育成とネットワークづくりを目的に、20～30代の県内社会人を対象に開催される人財育成の取組である。

塾では、塾長や多彩な講師による講話や、同世代の仲間とのグループディスカッション等を通じて、自らが生涯を通じて達成を目指す「人生の志」を立てるなど、自らの人生観や新たな世界観を広げ、成長する場を提供している。

2008年からこれまでに310名（1期～14期生）が塾を修了しており、「あおもり立志挑戦の会」（ARC）を設立し、地域貢献活動を行うなど、県内各地域・各分野で活躍している。（図1）



資料：県企画政策部

② 移住・相談窓口の設置状況

本県の首都圏における情報発信と移住相談窓口として「青森暮らしサポートセンター」を東京都内に設置し、専属の移住相談員による常時の相談体制を整えるとともに、首都圏等においてセミナーを開催するなど、移住・交流の促進に取り組んでいる。

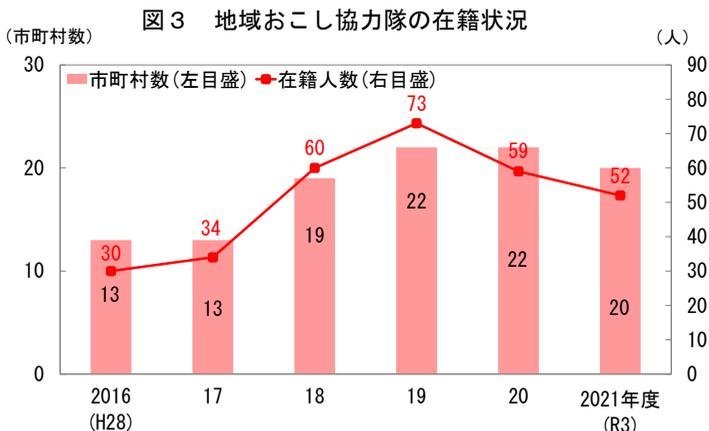
また、青森市、弘前市、八戸市、つがる市では、首都圏における相談窓口を設置している。(表2)

表2 移住・相談窓口の設置状況

| | 名称 | 所在地 |
|----------------|-------------------------------|------------------------------|
| 青森県 (40市町村) | 青森暮らしサポートセンター | 東京交通会館 8階 (ふるさと回帰支援センター内) |
| 青森市 | AoMoLink ～赤坂～あおもり地域ビジネス交流センター | 東京都港区 |
| 弘前市 | ひろさき移住サポートセンター東京事務所 | 東京交通会館 6階 |
| 八戸市 | 八戸圏域連携中枢都市圏 観光・UIJターニング窓口 | 全国都市会館 5階 (八戸市東京事務所内) |
| | 八戸都市圏交流プラザ8base | 東京都千代田区 |
| つがる市 | つがる市東京事務所 | 東京都新宿区 |

③ 地域おこし協力隊の在籍状況

2022年3月末時点で、20市町村で52名の隊員が地域活動に従事している。(図3)



※ 在籍状況は、各年度3月末時点の在籍状況。

※ 地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ生活の拠点を移し、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受けて地域で生活し、農林漁業の応援、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事する者をいう。

④ 外国人登録者数

県内外国人登録者数は近年増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年は12月末時点で6,165人と減少した。

国籍別の内訳は、アジア地域が全体の90.0%を占め、ベトナム、中国、韓国・朝鮮の割合が大きくなっている。近年、ベトナムの伸びが大きく、2018年以降、中国を抜いて1位となっている。(表4)

表4 県内主要国籍別外国人登録者数

(単位：人)

| 地域・国 | 2015年 (H27) | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 2020年 (R2) |
|-------|----------------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| アジア | 3,614 | 3,922 | 4,472 | 5,069 | 5,676 | 5,547 |
| 中国 | 1,236 | 1,106 | 1,217 | 1,285 | 1,335 | 1,139 |
| 韓国・朝鮮 | 862 | 844 | 838 | 845 | 855 | 781 |
| フィリピン | 535 | 551 | 589 | 656 | 736 | 732 |
| ベトナム | 414 | 771 | 1,093 | 1,502 | 1,896 | 2,007 |
| その他 | 567 | 650 | 735 | 781 | 854 | 888 |
| ヨーロッパ | 135 | 131 | 123 | 141 | 147 | 124 |
| 北アメリカ | 408 | 425 | 434 | 448 | 438 | 389 |
| 南アメリカ | 36 | 38 | 37 | 63 | 65 | 48 |
| オセアニア | 30 | 30 | 35 | 46 | 43 | 35 |
| アフリカ | 21 | 21 | 19 | 18 | 17 | 20 |
| 無国籍 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 計 | 4,245 | 4,568 | 5,121 | 5,786 | 6,386 | 6,165 |

資料：法務省「在留外国人統計」

在留資格別に内訳を見ると、技能実習は2015年から2020年の5年間でおよそ2.3倍の伸びとなっており、2019年以降在留資格別で最も多くなっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、留学と教育が大きく減少しているが、増加傾向にあった技術・人文知識・国際業務は増加した。(次頁表5)

表5 県内在留資格別外国人登録者数

(単位：人)

| 在留資格 | 2015年 (H27) | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 2020年 (R2) | 構成比 | 対前年 伸び率 |
|-----------------|----------------|-------|-------|-------|-------|---------------|-------|------------|
| | | | | | | | (%) | (%) |
| 留学 | 338 | 352 | 384 | 414 | 438 | 311 | 5.0 | △ 29.0 |
| 技能実習 | 995 | 1,271 | 1,650 | 2,099 | 2,552 | 2,354 | 38.2 | △ 7.8 |
| 高度専門職(※2015年新設) | 3 | 3 | 6 | 12 | 10 | 11 | 0.2 | 10.0 |
| 技能 | 84 | 81 | 67 | 55 | 49 | 47 | 0.8 | △ 4.1 |
| 技術・人文知識・国際業務 | 121 | 151 | 188 | 247 | 337 | 344 | 5.6 | 2.1 |
| 教育 | 138 | 143 | 144 | 159 | 164 | 130 | 2.1 | △ 20.7 |
| 教授 | 15 | 15 | 14 | 17 | 18 | 19 | 0.3 | 5.6 |
| 永住・定住 | 2,265 | 2,232 | 2,242 | 2,268 | 2,295 | 2,206 | 35.8 | △ 3.9 |
| その他 | 286 | 320 | 426 | 515 | 523 | 743 | 12.1 | 42.1 |
| 計 | 4,245 | 4,568 | 5,121 | 5,786 | 6,386 | 6,165 | 100.0 | △ 3.5 |

資料：法務省「在留外国人統計」

※在留資格者の該当例

留学：大学、短期大学、高等専門学校、高等学校中学校及び小学校等の学生・生徒

技能実習：技能実習生

高度専門職：ポイント制による高度人材

技能：外国料理の調理師、スポーツ指導者、航空機の操縦者、貴金属等の加工職人等

技術・人文知識・国際業務：機械工学等の技術者、通訳、デザイナー、私企業の語学教師、マーケティング業務従事者等

教育：中学校・高等学校等の語学教師等

教授：大学教授等

永住・定住：法務大臣から永住の許可を受けた者、日本人の配偶者・子・特別養子、永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子、第三国定住難民、日経3世、中国在留邦人等

⑤ 本県の友好提携

本県の国際交流に係る協定等は、1980年にサンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）、1992年にハバロフスク地方（ロシア連邦）、1994年にメイン州（アメリカ合衆国）、2002年にリグーリア州（イタリア共和国）、2004年に大連市（中華人民共和国）、2016年に済州特別自治道（大韓民国）及び台中市（台湾）、2017年に台南市（台湾）と締結している。

市町村では20市町村が友好提携（2021年12月現在）を結び、教育、文化、芸術など様々な分野で地域の特色を生かした交流を行っている。（次頁表6）

表6 県内自治体の姉妹・友好提携一覧

| 団体名 | 国名・地域 | 姉妹・友好提携先 | 提携年月日 |
|------|-----------|-------------------------|--------------|
| 青森県 | ブラジル連邦共和国 | サンタ・カタリーナ州 | 1980. 10. 23 |
| | ロシア連邦 | ハバロフスク地方 | 1992. 8. 27 |
| | アメリカ合衆国 | メーン州 | 1994. 5. 25 |
| | イタリア共和国 | リグーリア州 | 2002. 5. 7 |
| | 中華人民共和国 | 遼寧省大連（ダイレン）市 | 2004. 12. 24 |
| | 大韓民国 | 済州（チェジュ）特別自治道 | 2016. 8. 8 |
| | 台湾 | 台中市 ※平川市を含む三者による協定 | 2016. 12. 14 |
| | 台湾 | 台南市 ※弘前市を含む三者による覚書 | 2017. 12. 4 |
| 青森市 | ハンガリー共和国 | バーチ・キシュクン県ケチケメート市 | 1994. 8. 4 |
| | 大韓民国 | 京畿道平澤（ピョンテク）市 | 1995. 8. 28 |
| | 中華人民共和国 | 遼寧省大連市 | 2004. 12. 24 |
| | 台湾 | 新竹県 | 2014. 10. 17 |
| 弘前市 | 台湾 | 台南市 ※県を含む三者による覚書 | 2017. 12. 4 |
| 八戸市 | アメリカ合衆国 | ワシントン州フェデラルウェイ市 | 1993. 8. 1 |
| | 中華人民共和国 | 甘肅省蘭州（ランシュウ）市 | 1998. 4. 14 |
| 黒石市 | アメリカ合衆国 | ワシントン州ウエナッチ市 | 1971. 10. 5 |
| | 大韓民国 | 慶尚北道永川（ヨンチョン）市 | 1984. 8. 17 |
| 三沢市 | アメリカ合衆国 | ワシントン州ウエナッチ市 | 1981. 10. 4 |
| | アメリカ合衆国 | ワシントン州東ウエナッチ市 | 2001. 8. 23 |
| むつ市 | アメリカ合衆国 | ワシントン州ポートエンジェルズ市 | 1995. 8. 14 |
| つがる市 | アメリカ合衆国 | メーン州バス市 | 2006. 7. 6 |
| 平川市 | 台湾 | 台中市 ※県を含む三者による協定 | 2016. 12. 14 |
| 鰍ヶ沢町 | ブラジル連邦共和国 | サンパウロ州サン・セバスチオン市 | 1984. 10. 26 |
| 深浦町 | フィンランド共和国 | ラップランド州ラヌア郡 | 1990. 6. 26 |
| 西目屋村 | 中華人民共和国 | 吉林省梨樹県葉赫滿族鎮（ヨウカクマンソクチン） | 1985. 4. 29 |
| 大鰐町 | アメリカ合衆国 | ミシガン州ノーバイ市 | 1991. 12. 20 |
| 板柳町 | アメリカ合衆国 | ワシントン州ヤキマ市 | 1972. 2. 3 |
| | 中華人民共和国 | 北京市昌平（ショウヘイ）区 | 1993. 6. 23 |
| 鶴田町 | アメリカ合衆国 | オレゴン州フッドリバー市 | 1977. 7. 27 |
| 七戸町 | 大韓民国 | 慶尚南道河東（ハドン）郡 | 1994. 11. 16 |
| 六ヶ所村 | ドイツ連邦共和国 | メクレンブルク・フォアポンメルン州ヴァーレン市 | 1994. 4. 22 |
| 大間町 | 台湾 | 雲林県虎尾鎮（コピチン） | 1979. 10. 10 |
| 三戸町 | オーストラリア連邦 | ニューサウスウェールズ州タムワース市 | 2001. 7. 5 |
| 五戸町 | フィリピン共和国 | ヌエバ・ビスカヤ州バヨンボン町 | 1983. 12. 22 |
| | 大韓民国 | 忠清北道沃川（オクチョン）郡 | 1997. 8. 28 |
| 田子町 | アメリカ合衆国 | カリフォルニア州ギルロイ市 | 1988. 4. 18 |
| | イタリア共和国 | ピアツェンツァ郡モンティチェリ・ドンジーナ町 | 1992. 9. 11 |
| | 大韓民国 | 忠清南道瑞山（ソサン）市 | 2012. 6. 22 |

資料：県観光国際戦略局

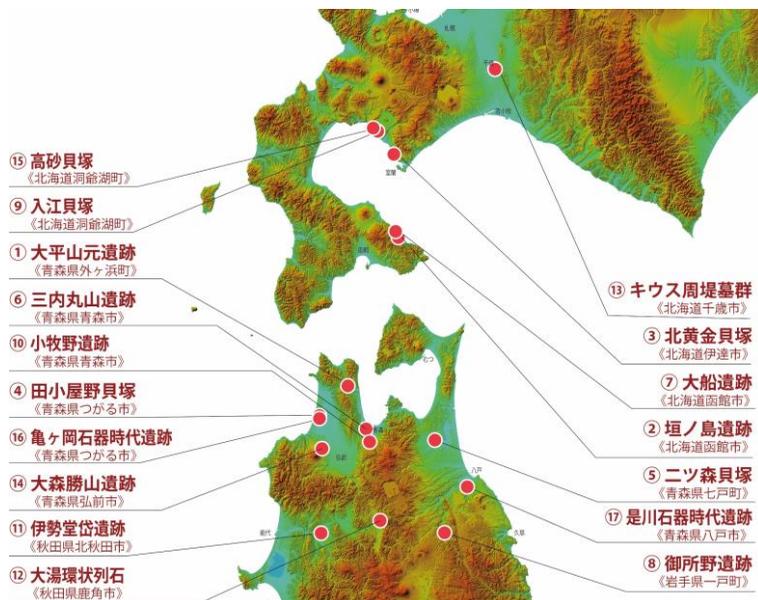
(3) 文化・スポーツ

| | |
|---------------------|---------------|
| 県立郷土館利用者数（2020年度） | 約2万4千人 |
| 県立美術館入館者数（ ” ） | 約4万9千人 |
| 県内の公共スポーツ施設（2018年度） | 798施設 |
| 第74回国民体育大会（2019年） | 天皇杯45位（前回42位） |

資料：文部科学省「2018（平成30）年度体育・スポーツ施設現況調査」、県教育庁、県観光国際戦略局

① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産

2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17の構成資産のうち8つが県内に所在している。（詳細は32～35ページ参照）



※国土地理院タイルを使用して作成

地理院タイル一覧ページ (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大平山元遺跡、ニツ森貝塚

北海道：大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚（入江貝塚）、入江・高砂貝塚（高砂貝塚）

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡

② ユネスコ無形文化遺産

重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33件の祭りで構成される「山・鉾・屋台行事」が、2016年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

③ 日本遺産

県無形民俗文化財である「鱒ヶ沢白八幡宮の大祭行事」や、県重宝である深浦町の円覚寺宝篋印塔、野辺地町の町指定史跡「浜町の常夜燈」などの文化財を含む「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、日本遺産に認定されている。（日本海及び瀬戸内海沿岸自治体により構成）

④ 文化財

表2 青森県伝統工芸品一覧表

| 工芸品名 | 市町村名 | 工芸品名 | 市町村名 |
|-------------|------------------------------------|----------|--------------|
| 津軽塗 | 弘前市 | 津軽風 | 弘前市 |
| 津軽焼 | 弘前市 | 津軽びいどろ | 青森市 |
| 八戸焼 | 八戸市 | 錦石 | 青森市、弘前市、外ヶ浜町 |
| 下川原焼土人形 | 弘前市 | 南部姫毬 | 南部町 |
| あけび蔓細工 | 弘前市 | えんぶり烏帽子 | 八戸市 |
| 津軽竹籠 | 弘前市 | きみがらスリッパ | 十和田市 |
| ひば曲物 | 藤崎町 | 目屋人形 | 西目屋村 |
| こぎん刺し | 青森市、弘前市、五所川原市 | 津軽打刃物 | 弘前市 |
| 南部裂織 | 青森市、八戸市、十和田市 むつ市、七戸町、佐井村 五戸町 | 津軽桐下駄 | 弘前市 |
| 南部菱刺し | 八戸市、十和田市、 おいらせ町、五戸町 | 南部総桐箆筥 | 八戸市 |
| 温湯こけし・ずぐり独楽 | 黒石市 | 太鼓 | 弘前市 |
| 大鱧こけし・ずぐり | 大鱧町 | ねぶたハネト人形 | 青森市 |
| 弘前こけし・木地玩具 | 弘前市 | 津軽裂織 | 青森市、平内町、つがる市 |
| 八幡馬 | 八戸市 | 津軽組ひも | 五所川原市 |
| 善知鳥彫ダルマ | 青森市 | 五戸ばおり | 五戸町 |
| | | ブナコ | 弘前市 |
| | | 南部花形組子 | 八戸市 |
| | | 金魚ねぶた | 弘前市 |
| | | 津軽伝統組子 | 弘前市 |

資料：県商工労働部

【国指定の主な文化財】

国宝〔工芸品〕

あかいとおどしよろい かぶと おおそでつき しろいとおどしつまりよろいかぶと おおそでつき
赤糸威 鎧 兜、大袖付、白糸威 袷取 鎧 兜、大袖付 (いずれも八戸市)

国宝〔考古資料〕

合掌土偶 (八戸市風張 1 遺跡出土)

重要文化財〔建造物〕

弘前城、最勝院五重塔 (いずれも弘前市)、櫛引八幡宮本殿 (八戸市)

重要無形文化財〔工芸技術〕

津軽塗

重要無形民俗文化財

青森のねぶた、八戸のえんぶり、下北の能舞

記念物〔特別史跡〕

三内丸山遺跡 (青森市)

記念物〔特別名勝及び天然記念物〕

十和田湖および奥入瀬溪流 (十和田市)

⑤ 伝統工芸

県内には、津軽塗や南部裂織を始め、地域に生まれ、生活の中で育まれてきた優れた伝統工芸品が数多く存在する。これらの多くは、後継者や販路の確保といった課題を抱えていることから、県では、伝統工芸品の価値の再評価とその作り手の意識の向上を図るため、一定の要件を満たすものを「青森県伝統工芸品」に指定している。(表 2)

表 2 青森県伝統工芸品一覧表

| 工芸品名 | 市町村名 | 工芸品名 | 市町村名 |
|-------------|------------------------------------|----------|--------------|
| 津軽塗 | 弘前市 | 津軽風 | 弘前市 |
| 津軽焼 | 弘前市 | 津軽びいどろ | 青森市 |
| 八戸焼 | 八戸市 | 錦石 | 青森市、弘前市、外ヶ浜町 |
| 下川原焼土人形 | 弘前市 | 南部姫毬 | 南部町 |
| あけび蔓細工 | 弘前市 | えんぶり烏帽子 | 八戸市 |
| 津軽竹籠 | 弘前市 | きみがらスリッパ | 十和田市 |
| ひば曲物 | 藤崎町 | 目屋人形 | 西目屋村 |
| こぎん刺し | 青森市、弘前市、五所川原市 | 津軽打刃物 | 弘前市 |
| 南部裂織 | 青森市、八戸市、十和田市 むつ市、七戸町、佐井村 五戸町 | 津軽桐下駄 | 弘前市 |
| 南部菱刺し | 八戸市、七戸町、 おいらせ町、五戸町 | 南部総桐箆箆 | 八戸市 |
| 温湯こけし・ずぐり独楽 | 黒石市 | 太鼓 | 弘前市 |
| 大鱧こけし・ずぐり | 大鰐町 | ねぶたハネト人形 | 青森市 |
| 弘前こけし・木地玩具 | 弘前市 | 津軽裂織 | 青森市、平内町、つがる市 |
| 八幡馬 | 八戸市 | 津軽組ひも | 五所川原市 |
| 善知鳥彫ダルマ | 青森市 | 五戸ばおり | 五戸町 |
| | | ブナコ | 弘前市 |
| | | 南部花形組子 | 八戸市 |
| | | 金魚ねぶた | 弘前市 |
| | | 津軽傳統組子 | 弘前市 |

資料：県商工労働部

⑥ 祭り

本県には、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」、歴史と文化に彩られた津軽の夏の風物詩「弘前ねぶたまつり」、様々な趣向を凝らした山車の迫力や華麗さが魅力の「八戸三社大祭」、奥津軽の夏の夜空を焦がす勇壮絢爛な「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れを汲む豪華絢爛な「田名部まつり」などの夏祭りや、三八地域に春を呼ぶ豊作祈願の祭りである「えんぶり」を始め、県内各地に四季折々の伝統的な祭りが数多くある。

これらの祭りは、観光資源としてはもとより、少子化・高齢化が進む中において、地域の絆を強め、コミュニティ機能を維持していく上でも重要な役割を担っており、地域に根ざした県民共通の財産として、未来へ伝えていく必要がある。

⑦ 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手

本県の豊かな自然や風土に育まれて、多くの県人が文学やアート、芸能、スポーツなど様々な分野で多彩な活躍をしている。(表3：敬称略)

表3 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手など

| | | | | | |
|------------|-------------------------------------|---|------|-----------------------------------|---|
| 文学・ジャーナリズム | クガ カツナン 陸 羯南 (1857～1907) | 新聞「日本」を創刊し、明治時代における我が国の言論界をリードした。 | 科学技術 | イシダテ モリツグ 石館 守三 (1901～1996) | 薬学の世界的権威で、東京大学初代薬学部長、ハンセン病の治療薬「プロミン」の国産化や、国産初のがん化学療法剤「ナイトロミン」の創製に成功した。 |
| | ハニ 羽仁 もと子 (1873～1957) | 日本初の女性記者。「家庭之友」(のち「婦人之友」)を創刊するとともに、自由教育を推進するため、「自由学園」を創設した。 | | キムラ ヒロササ 木村 秀政 (1904～1986) | 東京帝国大学(現東京大学)航空研究所が設計し、長距離飛行記録を達成した「航研機」の制作や、初の国産旅客機「YS11」の開発に携わった。 |
| | イシザカ ヨウジロウ 石坂 洋次郎 (1900～1986) | 軽快な青春小説で国民的な人気を博した作家。戦後発表された「青い山脈」が大ヒットし、「百万人の作家」と称され、一世を風靡した。 | | ニシヤマ ショウジ 西山 正治 (1922～1993) | 医師。世界初の「レントゲン車」を考案、開発するとともに、多方向から患部を撮影できる「ジャイロスコープ」の開発に取り組んだ。 |
| | ダライ オサム 太宰 治 (1909～1948) | 近代日本文学を代表する作家。「人間失格」「斜陽」「走れメロス」を始め、多くの作品を世に出した。2009年に生誕100周年を迎え、作品が映画化されるなど再び人気が高まっている。 | | カワグチ ジュンイチロウ 川口 淳一郎 (1955～) | 小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。2010年、「はやぶさ」は7年の歳月を経て、小惑星「イトカワ」から帰還するという世界初の快挙を達成した。 |
| | ミウラ テツオ 三浦 哲郎 (1931～2010) | 1961年「忍ぶ川」で、県人初となる、第44回芥川賞を受賞。その後も様々な作品を発表し、数多くの文学賞を受賞した。 | | | |
| | オサベ ヒデオ 長部 日出雄 (1934～2018) | 弘前市出身の小説家、評論家。1973年、「津軽じよんがら節」と「津軽世去れ節」により第69回直木賞を受賞。 | | | |
| | テラヤマ シュウジ 寺山 修司 (1935～1983) | 歌人、詩人、劇作家、映画監督など、多くの分野で活躍。演劇実験室「天井桟敷」を結成し、海外公演も手がけるなど、マルチな才能を発揮した。 | | | |
| | サワダ キョウイチ 沢田 教一 (1936～1970) | 報道カメラマンとして、ベトナム戦争の最前線で取材を行った。撮影した写真は国際的に高い評価を受け、「安全への逃避」はニュートン賞に輝いた。 | | | |
| | ウメナイ ミカコ 梅内 美華子 (1970～) | 歌人。2011年、歌集「エクス」が高い評価を受け、文化庁の芸術選奨新人賞を受賞。 | | | |
| | タカハシ ヒロキ 高橋 弘希 (1979～) | 十和田市生まれの小説家。2018年、「送り火」で第159回芥川賞を受賞。県出身者では、三浦哲郎以来57年ぶりの受賞。 | | | |
| | ゴ カツヒロ 呉 勝浩 (1981～) | 八戸市生まれの小説家。2020年、「スワン」で第73回日本推理作家協会賞及び第41回吉川英治文学新人賞を受賞。 | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------------|---|--|
| 美術・音楽 | ムナカタ ショウ 榎方 志功 (1903～1975) | 「世界のムナカタ」と呼ばれ、20世紀を代表する世界的な「版画家」である。大胆かつ独創的な表現で、他に類を見ない独特の世界を築いた。 | スポーツ選手など | オオタ ショブ 太田 忍 (1993～) | 五戸町出身。2016年リオデジャネイロオリンピック男子レスリンググレコローマン59キロ級で、銀メダルを獲得。 |
| | アワヤ 淡谷 のり子 (1907～1999) | 東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）を首席で卒業し、歌謡界へ。日本のシンチンソンの先駆者となる。「別れのブルース」「雨のブルース」が大ヒットし、「ブルースの女王」と呼ばれた。 | | イズミヤ 泉谷 しげる (1948～) | 青森市長島で生まれ、東京都で育つ。フォークシンガーや役者として活躍中。東北新幹線全線開業のテレビCMでは、新青森駅長を好演した。 |
| | タカヤマ ウイチ 藤木 宇一 (1908～1999) | 画家。花やチヨウなどをモチーフに、幻想的な画風で日本画壇に新風を巻き込むとともに、二科会の重鎮としても活躍した。 | | キノ ハナ 野花 (1948～) | 女優・演出家。弘前大学教育学部美術学科卒業。80年代小劇場ブームの旗手的な存在。2013年NHK連続テレビ小説「あまちゃん」にレギュラー出演。 |
| | タカハシ チクザン 高橋 竹山 (1910～1998) | 津軽三味線を国内はもとより海外へも広めた津軽三味線演奏の第一人者。アメリカ公演では、「三味線の名匠」と絶賛された。 | | ミカミ カン 三上 寛 (1950～) | 日本を代表するフォークシンガー。青森をバックボーンに津軽を原風景とした人間の生き様を歌い続ける。詩人として詩集やエッセイも多数。 |
| | クドウ コウジン 工藤 甲人 (1915～2011) | 現代日本画界を代表する一人。戦後、湧き起こった新しい日本画の創造を目指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げた。 | | ヨシ イクワ 吉 幾三 (1952～) | 歌手。1977年に自身の作詞・作曲による「俺はぜったい！ブルース」がヒット。代表曲「俺ら東京行くだ」「雪国」「酒よ」など。 |
| | ナリタ トオル 成田 亨 (1929～2002) | 彫刻家、特撮美術監督。「ウルトラマン」シリーズの多くの怪獣、ウルトラマン、宇宙人、メカのデザインを手がけ、現代日本文化を代表するモチーフを生み出した。 | | 2代目 イチカワ エミヤ 市川 笑也 (1959～) | 歌舞伎俳優。スーパー歌舞伎のヒロインの座を射止め、一躍スターに。2003年に本県で開催された第5回冬季アジア競技大会では、開閉会式の総合演出を担当。 |
| | ナラ ヨシトモ 奈良 美智 (1959～) | 我が国を代表する現代美術家。国際的にも高い評価を受けており、独特の風貌の少女を描いた作品や、青森県立美術館にある「あおもり大」で有名。 | | サトウ チクザン 佐藤 竹善 (1963～) | ロックバンド「Sing Like Talking」のボーカル。音楽プロデューサーとして活躍。1998年、青森市制100周年記念公演を発表。 |
| | ナンシー 関 (1962～2002) | 著名人の似顔絵の消しゴム版画と、これを挿絵として使ったコラムで人気を博した。 | | フキコ ミツル 吹越 満 (1965～) | 俳優。数多くの映画、ドラマに出演。シリアスなもののからコミカルなものまで、幅広い役柄を演じ、独特の存在感を発揮している。 |
| | ナキワ 沖澤 のどか (1987～) | 世界的指揮者の登竜門で小澤征爾さんらを輩出した仏プザンソン国際若手指揮者コンクールで、2019年に優勝を果たした。日本人として10人目。観客賞とオーケストラ賞も総なめする快挙。 | | サカモト 坂本 サトル (1967～) | シンガーソングライター。路上、飲食店、レコード店などでの「CD美演販売ライブ」が話題に。代表曲「天使達の歌」など。 |
| | スポーツ選手など | サイトウ ハルカ 齋藤 春香 (1970～) | | 弘前市出身。ソフトボール選手・指導者。2000年シドニー、2004年アテネオリンピックに出場し、主砲として活躍し、2大会連続で銀メダルを獲得。2008年北京オリンピックでは、ソフトボール日本代表監督として金メダルに導いた。 | 歌手・俳優など |
| オハラ ヒトミ 小原 日登美 (1981～) | | 八戸市出身。2012年ロンドンオリンピック女子レスリング48キロ級で金メダルを獲得。 | キタヤマ ヨウイチ 北山 陽一 (1974～) | 人気男性グループ「ガールズ」のメンバーとして活躍。2008年には八戸市から八戸大使に任命される。 | |
| イチヨウ チハル 伊調 千春 (1981～) | | 八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京オリンピック女子レスリング48キロ級で、2大会連続銀メダルを獲得。 | ヨコハマ サトコ 横浜 聡子 (1978～) | 青森市出身。2008年、商業映画デビュー作「ウルトラミラクルラブストーリー」を監督。全国公開され、多くの海外映画祭にて上映された。 | |
| イズミ ヒロシ 泉 浩 (1982～) | | 大間町出身。2004年アテネオリンピック男子柔道90キロ級で銀メダルを獲得。 | じろう (1978～) | 弘前市出身。お笑いコンビ「シシユ」のボケ担当。キングオブコント2014優勝。コントで培った演技力が評価され俳優として活動するほか、ドラマの脚本を手掛けるなど活躍の場を広げている。 | |
| イチヨウ カオリ 伊調 馨 (1984～) | | 八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピック女子レスリングで、金メダルを獲得。女子個人種目では五輪史上初となる4大会連続を成し遂げ、2016年に国民栄誉賞を受賞。 | ニイヤマ チハル 新山 千春 (1981～) | 青森生まれ。タレント、クイズ番組などのバラエティ番組で活躍中。 | |
| フルカワ タカハル 古川 高晴 (1984～) | | 青森市出身。2012年ロンドンオリンピックアーチェリー男子個人に出場し銀メダルを獲得、2021年東京オリンピックでは男子個人と男子団体で銅メダルを獲得した。 | ラツヤマ 松山 ケンイチ (1985～) | むつ市出身の俳優。映画「デスノート」で一躍脚光を浴びる。全編青森県ロケ、全編津軽弁の映画「ウルトラミラクルラブストーリー」に主演。2012年NHK大河ドラマ「平清盛」主演。 | |
| テンバ ユキ 天摩 由貴 (1990～) | | 青森市出身。2021年東京パラリンピックに日本代表チームキャプテンとして出場し銅メダルを獲得。 | エリー ELLY (1987～) | 三沢市出身。人気グループ「三代目」SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE」のパフォーマー。 | |
| シバサキ ガク 柴崎 岳 (1992～) | | 野辺地町出身。プロサッカー選手。2018年FIFAワールドカップにおいて、青森県勢初の日本代表として健闘し、決勝トーナメント進出に貢献した。 | ヨマイ レン 駒井 蓮 (2000～) | 平川市出身の女優。2021年全編津軽地方でロケ撮影が行われた映画「いとちみ」に映画単独初主演したほか、NHK大河ドラマ「青天を衝け」に出演。 | |

⑧ 体育・スポーツ施設

2018年度にスポーツ庁が実施した「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、県内の公共スポーツ施設は798施設ある。2021年12月1日現在の主な県有体育施設は、次のとおりである。新青森県総合運動公園内に整備を進めていた陸上競技場は、2018年12月に本体が完成し、2019年9月から利用を開始している。

- カクヒログループアスレチックスタジアム [新青森県総合運動公園陸上競技場] (青森市)
- マエダアリーナ [新青森県総合運動公園総合体育館] (青森市)
- 青森県総合運動公園野球場、屋外水泳場 (青森市)
- 盛運輸アリーナ [青森県営スケート場] (青森市)
- 青森県武道館 (弘前市)

⑨ 県内を拠点に活動するプロスポーツチーム

県内には、地域と深く密着しながら活動するプロスポーツチームがあり、スポーツ振興や地域の活性化に貢献している。

【主なプロスポーツチーム】

- 青森ワッツ (バスケットボール)
青森県を本拠地とするプロバスケットボールチーム。青森県内に初めて設立されたプロスポーツチームで、B. LEAGUE に参戦している。
- HACHINOHE DIME (3人制バスケットボール)
3人制のプロバスケットボールチーム。2019年から3x3. EXE PREMIER に参戦している。
- ヴァンラーレ八戸FC (サッカー)
2018年11月にJ3昇格が正式決定。Jリーグ入会は青森県勢初。
- 東北フリーブレイズ (アイスホッケー)
八戸市と福島県郡山市をホームタウンとして活動。2009年からアジアリーグに加盟している東北初のトップリーグチーム。

⑩ 総合型地域スポーツクラブ

「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツができる環境づくりと地域コミュニティの形成に向け、「多世代」、「多志向」、「多種目」により、地域住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」が全国で展開されている。

本県では、2021年8月1日現在、33市町村で42の総合型地域スポーツクラブが創設されている。また、1町1クラブが創設に向け準備を進めている。(次頁表4)

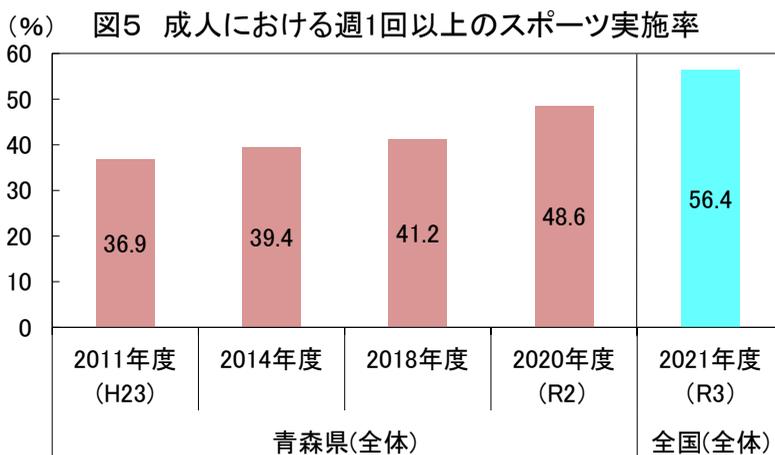
表 4 県内の総合型地域スポーツクラブ

| クラブ名 | 市町村名 |
|---|-------|
| 青森総合スポーツクラブ Willスポーツクラブ 総合型地域スポーツクラブ CLUB Salute Inizio青森 | 青森市 |
| 株式会社リベロススポーツクラブ NPO法人スポネット弘前 | 弘前市 |
| ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ ウインズスポーツクラブ 一般社団法人総合型地域スポーツHachinohe Club 総合型地域スポーツ・文化クラブ デポルターレ八戸 くろいしアスリート アンド エンジョイクラブ | 八戸市 |
| 五所川原総合スポーツクラブ | 黒石市 |
| 総合型スポーツクラブ RED HORSE | 五所川原市 |
| スポーツクラブみさわ | 十和田市 |
| むつアスリートクラブ | 三沢市 |
| いながきスポーツクラブ 車力楽笑スポーツクラブ | むつ市 |
| ひらかわスポーツクラブ | つがる市 |
| 平内ふれあいスポーツクラブ 平内町総合型地域スポーツクラブAGE | 平川市 |
| 今別町地域総合型クラブWAND | 平内町 |
| よもっと元気スポーツクラブ | 今別町 |
| 東津軽郡スポーツクラブ | 蓬田村 |
| 鱒ヶ沢町スポーツクラブ | 外ヶ浜町 |
| 総合型地域スポーツクラブ Joy Spo! ふかうら | 鱒ヶ沢町 |
| ふじさきいきいきスポーツクラブ | 深浦町 |
| 一般社団法人 Roots 大鰐 | 藤崎町 |
| 田舎館村総合型地域スポーツクラブ | 大鰐町 |
| りんごの里スポーツクラブ | 田舎館村 |
| 鶴田町放課後子どもプラン・子どもスポーツクラブ | 板柳町 |
| 六戸町B&Gクラブ | 鶴田町 |
| 横浜町総合型地域スポーツクラブ | 六戸町 |
| 東北町旭町地区総合型地域スポーツクラブ | 横浜町 |
| ひばりさわやかスポーツクラブ | 東北町 |
| 大間町総合型地域スポーツクラブ | 六ヶ所村 |
| 東通村総合型地域スポーツクラブ | 大間町 |
| 五戸町スポーツクラブ | 東通村 |
| スポネットたっこ | 五戸町 |
| 一般社団法人総合型クラブななっち | 田子町 |
| 一般社団法人ライズはしかみ | 南部町 |
| 一般社団法人さんのへスポーツクラブEnjoy | 階上町 |
| 三ツ岳スポーツクラブ | 三戸町 |
| | 新郷村 |

資料：青森県広域スポーツセンター（県教育庁スポーツ健康課内）

⑪ 県民のスポーツ実施率

成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加しているものの全国平均を下回っている。(図5)



資料: 県教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」、
スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

⑫ あおもりアスリートネットワーク

本県にゆかりのあるオリンピックやトップアスリート、指導者等が主体となり、スポーツを通じた様々な社会貢献活動を展開する「あおもりアスリートネットワーク」が2012年11月に設立され、県民のスポーツを推進するための活動や、本県における競技力向上のための活動、青少年の健全育成や健康増進のための活動を行っている。(令和3年5月時点、メンバー42名)(次頁表6)

表6 あおもりアスリートネットワークメンバー（2021年5月現在）

| No. | 役員 | 氏名 | 競技種目 |
|-----|------|--------|----------------------|
| 1 | 代表 | 齋藤 春香 | ソフトボール |
| 2 | 副代表 | 赤石 光生 | レスリング |
| 3 | 副代表 | 金濱 康光 | スピードスケート |
| 4 | 副代表 | 三ヶ田 礼一 | ノルディックスキー |
| 5 | 幹事 | 野澤 英二 | 車椅子マラソン・バイアスロン |
| 6 | 幹事 | 山下 祐史 | ラグビー |
| 7 | 幹事 | 山谷 千春 | レスリング |
| 8 | 会計監事 | 吉田 理子 | ボート |
| 9 | | 五十嵐 祐司 | 空道 |
| 10 | | 五十嵐 理一 | ボクシング |
| 11 | | 泉 浩 | 柔道 |
| 12 | | 伊調 馨 | レスリング |
| 13 | | 岩谷 高峰 | アルペンスキー |
| 14 | | 蝦名 康一 | レスリング |
| 15 | | 小原 日登美 | レスリング |
| 16 | | 金浜 良 | レスリング |
| 17 | | 岸本 鷹幸 | 陸上競技(400mハードル) |
| 18 | | 熊谷 克仁 | アルペンスキー |
| 19 | | 蹴揚 将行 | 柔道 |
| 20 | | 古川 純一 | ノルディックスキー |
| 21 | | 齊藤 直飛人 | 相撲 |
| 22 | | 坂本 勉 | 自転車競技 |
| 23 | | 坂本 朋子 | アルペンスキー・シットイングバレーボール |
| 24 | | 佐々木 一成 | ノルディックスキー |
| 25 | | 春藤 るみ | 新体操 |
| 26 | | 当麻 成人 | 水球 |
| 27 | | 高橋 一馬 | アイスホッケー |
| 28 | | 鳥谷部 真弓 | 柔道 |
| 29 | | 中澤 祐政 | ノルディックスキー |
| 30 | | 中嶋 亜矢 | 女子ラグビー |
| 31 | | 長濱 一年 | ノルディックスキー |
| 32 | | 新山 夏葵 | テコンドー |
| 33 | | 野口 紀子 | ボート |
| 34 | | 籙 修子 | ノルディックスキー |
| 35 | | 畑山 茂雄 | 陸上競技(円盤投げ) |
| 36 | | 藤田 博臣 | 柔道 |
| 37 | | 福士 加代子 | 陸上競技(長距離) |
| 38 | | 古川 高晴 | アーチェリー |
| 39 | | 三浦 孝之 | アイスホッケー |
| 40 | | 三上 正貴 | ラグビー |
| 41 | | 宮崎 未樹子 | 柔道・レスリング |
| 42 | | 吉本 岳史 | サッカー |

トピックス③：自信をもって伝えよう YES!AOMORI

若者の県内定着・還流に向けて、令和2～3年度に庁内ベンチャー事業として実施した「県民みんなが考える『いいよね青森』推進事業」では、YES!AOMORI をキャッチフレーズに、県民の青森に対するイメージ変革や自信と誇りの醸成を目指し青森の価値や魅力を発信しました。

1 青森県って、どんなイメージですか？

青森県の大きな政策課題の一つが「若者の県外流出」です。18歳、20歳、22歳という進学や就職のタイミングで多くの若者が県外に流出し、そのまま地元に戻らないというこの問題の背景について、過去の調査結果をみると（図1）、賃金、待遇などの労働条件から県外を選ぶのではなく、「とにかく地元を離れたたい」、「都会に魅力を感じる」など、特段具体的な理由がない「なんとなく」の県外志向が目立ちます。また、子どもの就職先の選択には親の意向が強く影響しているという調査結果もあり、周囲の大人の意識が若者の県外志向を育んでいるとも言えます。

この「なんとなく」の県外志向の要因を探る上で注目したのが、青森県民が“自分たちは県外の人からどのように思われていると思うか”、それに対して、“実際に他県民は青森県民をどう思っているか”を調査し、比較した結果です（図2）。両者を比較すると、青森県民は他県民が実際に思っている以上に、自分たちをネガティブに捉えていることが分かります。

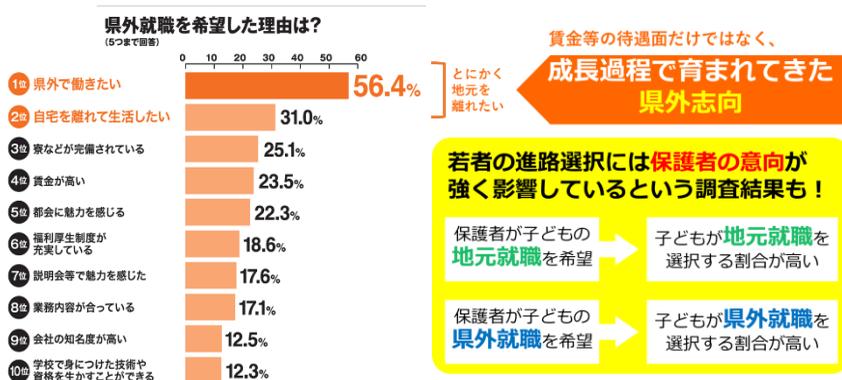
このような「県民自身が青森をネガティブに捉えてしまう」気持ちや、親から子へと世代を超えて連鎖し、若者の県外志向につながっているのではないかと仮定し、ネガティブイメージの変革を目指して取り組み始めました。

2 本当は、青森県のことをどう思っているの？

県民の青森に対するイメージや、進路選択の理由などを探るため、大学生やその保護者約1万人を対象にアンケート調査を行ったほか、県内大学の協力を得て、「青森に対するイメージ」について学生にインタビューを行いました。

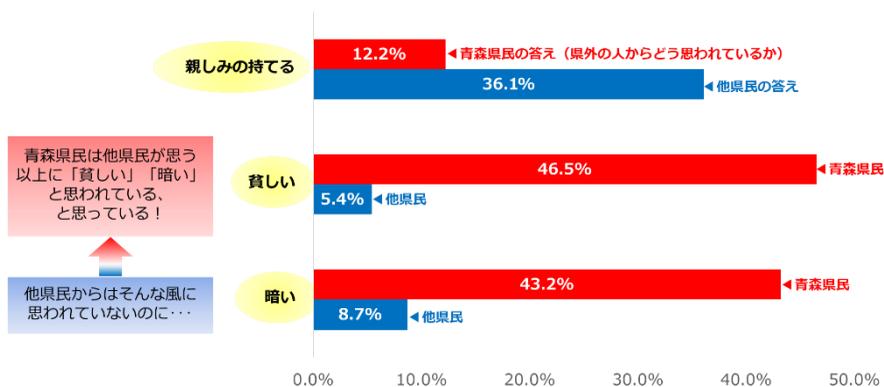
リサーチ活動から分かったのは、保護者も学生も、青森に対するイメージは決して悪くはないこと、そして、県外就職を希望する学生は多いものの、その約4割は、「いつかは青森に帰りたい」と思っていることなどでした（図3）。

<図1> 若者の県外流出の理由と背景



資料：青森県企画調整課「平成30年度高校生の就職に関する意識調査」

<図2> 「県民が、県外の人からどう思われていると思っているか」の調査結果



資料：青森県地域活力振興課「平成25年郷土への愛着やイメージに関するアンケート」

<図3> 県外就職を希望する学生の就職後の見通し



資料：青森県企画調整課「令和2年度若者の将来選択に関するアンケート調査」

3 もっと話してみよう、青森のこと

インタビューで直接学生と話をする中で見てきたのが、自分の将来について気軽に相談できる相手がいない、大人（社会人）と話す機会があまりない、という学生の姿です。経験も情報も少なく、「青森では夢を叶えられないのではないか」「都会の方がチャンスは多いのではないか」といった漠然としたイメージで県外就職を希望している学生が目立ちました。

そこで、学生が県内で働く社会人との対話を通じて、自分の将来の仕事や暮らしを具体的にイメージし、青森の魅力について考えるワークショップを県内大学で実施しました。

複数の写真やカードの中から“私が大切にしたいこと”というテーマに合うものを選び、選択理由を説明する中で自己の内面と向き合い、自分は本当は将来どこでどのように働き、どんな生活を送りたいのかを、社会人ファシリテーターや同級生との対話を通じて考えていくワークショップです。

20年後の自分の姿をイメージさせるプロセスや、経験豊富な地元社会人のトークなどを盛り込むことで、目の前の就職活動や楽しみだけではなく、家庭生活や子育てなど長期的なライフプランの観点から「暮らす場所」「働く場所」を考える機会となり、参加者からは「居住空間や子育て環境、家族がそばにいることなど、自分が本当に大切にしたいことに気づいた」「青森で叶えられることはたくさんある」など、青森の魅力を再発見できたという感想が聞かれました。

＜写真1＞大学生へのインタビューの様子（対面またはオンライン）



＜写真2＞県内大学で実施したワークショップの様子



4 自信をもって伝えよう YES!AOMORI

保護者世代をメインターゲットに青森の価値や魅力を発信し、青森に自信と誇りを持ってもらおうと、インスタグラムキャンペーン、ミニ番組・TV CM放送、新聞企画広告、フォーラム開催など、幅広く事業を展開しました。

番組やフォーラムなどに御出演いただいた県民の皆さんそれぞれが、青森に多様な価値や魅力を見出し、青森を全力で楽しみ、青森をもっと良くしていこうと行動していることに心打たれました。また、そうした一人ひとりの挑戦で「青森は確実に良い方向に変わってきている」のだと確信できました。



テレビCM (R3年度放送)



ミニ番組 (R2年度放送)



フォーラム (R2年度実施)



新聞企画広告 (R2年度掲載)

「YES!AOMORI」のロゴマーク (右) には、“「何もない」を変えていく” というフレーズを掲げています。

つつい「青森には何もない」とつぶやいてしまう県民マインドを変えていきたい、自信をもって「青森はいい」と言えるようになって欲しい、そんな思いを表しています。

大人から子どもへ、自信をもって自分なりの「YES!AOMORI」を伝えてほしい。そうすればきっと、子どもたちは生まれ育った青森にもっと誇りを持ち、若者から「選ばれる青森」になっていける、そう思いませんか。



IV 地域別情報

本県は、東青地域、中南地域、三八地域、西北地域、上北地域、下北地域の6つの地域で構成され、地域ごとに産業や風土など様々な特色がある。

ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

地域県民局管内図

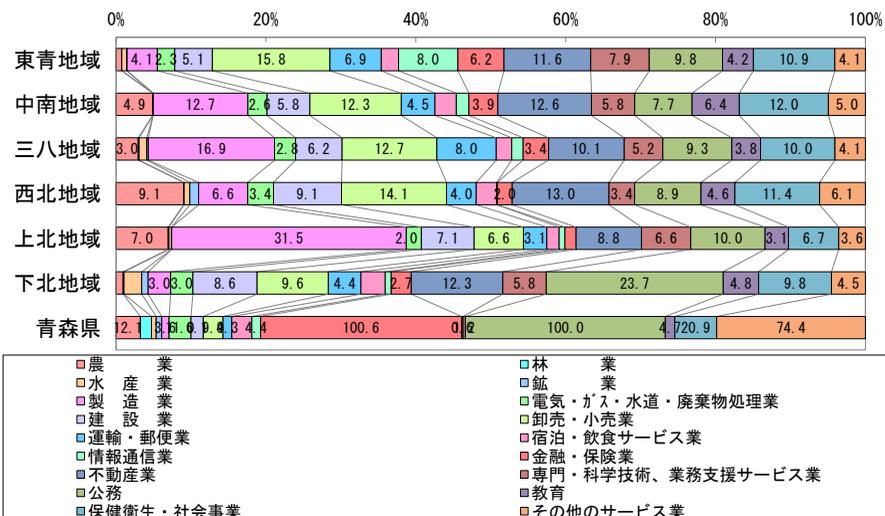


1 地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた5地域で第3次産業の割合が7割を超えており、特に、東青地域・下北地域では8割超と高くなっている。(図1)

他地域との比較では、総生産額の推計上、持家の帰属家賃の影響が大きい「不動産業」を除くと、東青地域・西北地域は「卸売・小売業」、中南地域・三八地域・上北地域は「製造業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図1 地域別の域内総生産（2018年度）



※ 税等を控除していないため、合計は100%を超える。 資料：県企画政策部「平成30年度市町村民経済計算」

※ 産業分類

第1次産業：農業、林業、水産業

第2次産業：鉱業、製造業、建設業

第3次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、

運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業

不動産業、専門・科学技術・業務支援サービス業、公務、教育、

保健衛生・社会事業、その他のサービス業

※ 持家の帰属家賃…持家の住宅から得られるサービスに相当する価値を見積もり、これを住宅費用とみなした場合に支払われるであろう家賃のこと。実際には金銭の受払を伴わない。

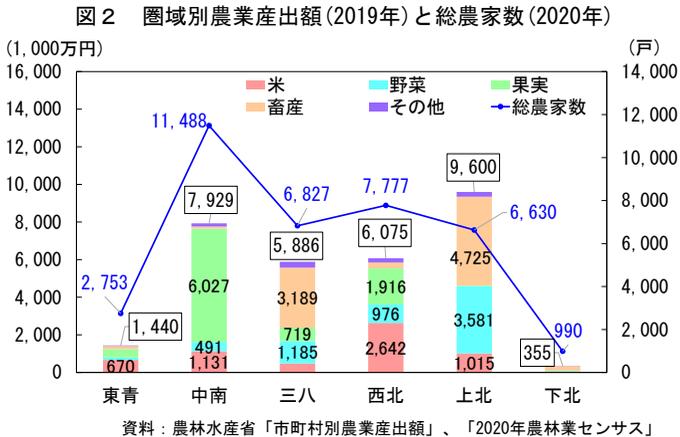
2 産業別に見る地域の特長

(1) 農業の盛んな中南・西北・上北地域

2019年の農業産出額は上北地域が最も高くなっており、県全体の約30%を占める。上北地域・三八地域は畜産や野菜、中南地域はりんごを中心とした果実、西北地域は米が多いなど、地域ごとに特長がある。

総農家数は中南地域が最も多く、次いで西北地域、三八地域の順となっている。

(図2)



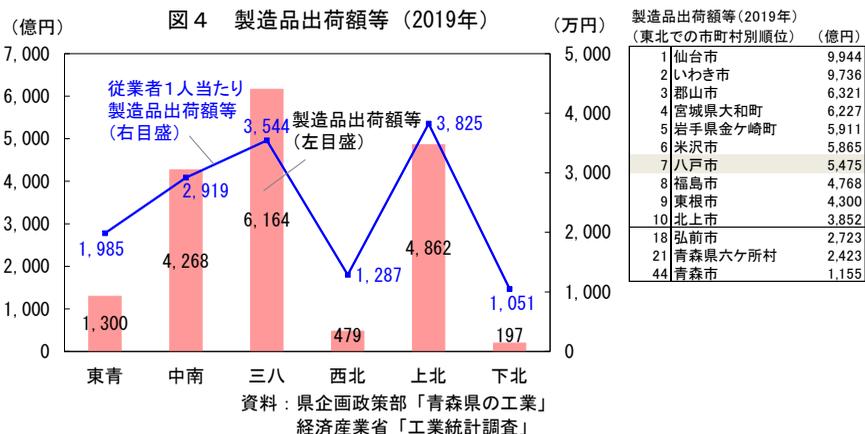
(2) 水産業の盛んな三八・東青・下北地域

2020年の海面漁業漁獲金額は、八戸港を擁する三八地域が約132億円と最も高くなったが、2019年の約144億円からは約8.3%の減となった。大規模経営体が多い三八地域は下北、東青地域と比べて漁業経営体数は少なくなっている。(図3)



(3) 製造業を支える三八・上北地域

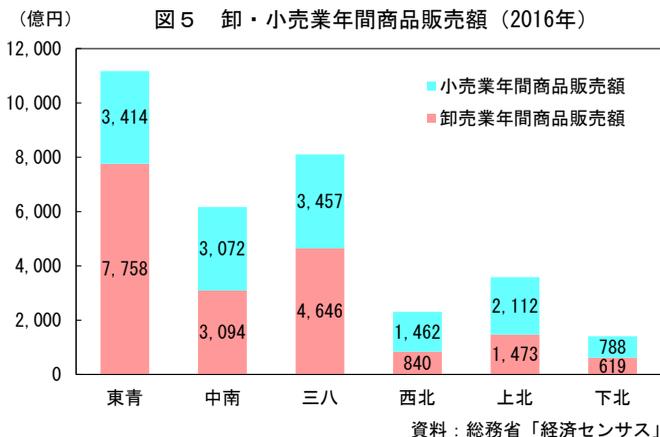
2019年の製造品出荷額等は、八戸市での食料品、飼料、紙パルプ、鉄鋼などの出荷額が多い三八地域が6,164億円と最も高く、県全体の約35.7%を占めている。従業者1人当たりについては、上北地域が最も高い水準となっている。(図4)



(4) 商業の中心地・東青地域

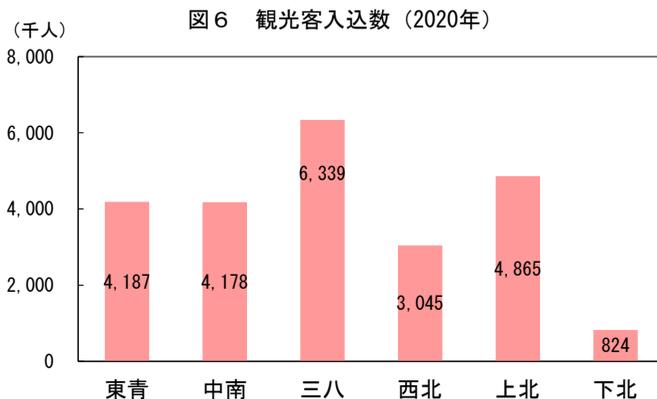
2016年の小売業・卸売業年間商品販売額をみると、東青地域が最も多く、このうち青森市が占める割合は約98.5%となっている。

三八地域に占める八戸市の割合は約92.7%、中南地域に占める弘前市の割合は約79.9%であり、青森市、八戸市、弘前市に商業機能が集中していることがわかる。(図5)



(5) 観光客が多く訪れる三八・中南地域

2020年の県の観光客入込数は23,438千人と、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度より大幅に減少（-33.9%）している。地域別では、三八地域が2010年から10年連続で入込数が最多となっている。（図6）

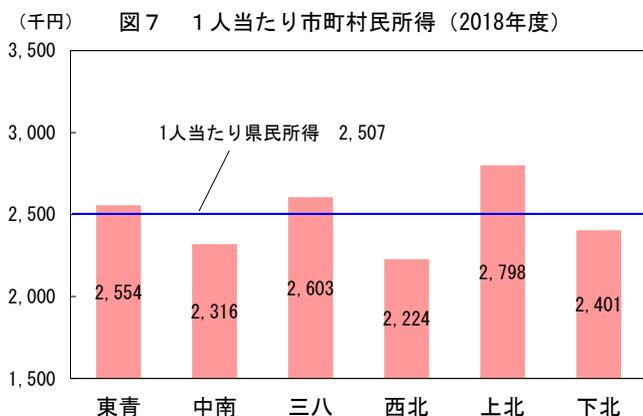


資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

(6) 1人当たり市町村民所得の高い上北地域

2018年度の市町村民経済計算における1人当たり市町村民所得は、六ヶ所村、東通村、おいらせ町、西目屋村、八戸市の順に高くなっている。

地域別では上北地域の2,798千円が最も高く、次いで三八地域2,603千円、東青地域2,554千円となっている。（図7）

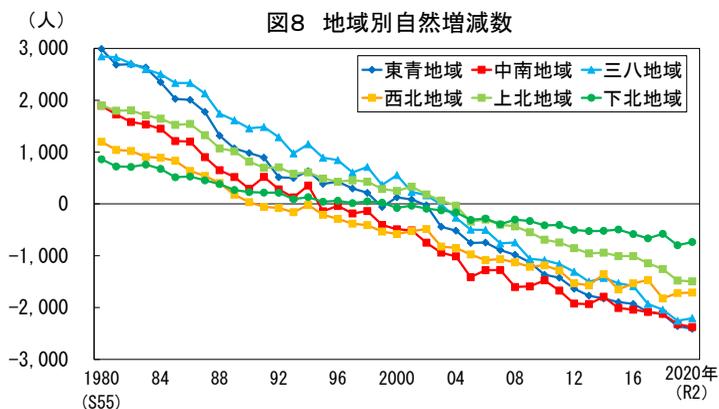


資料：県企画政策部「平成30年度市町村民経済計算」

(7) 各地域の人口動態

<自然動態>

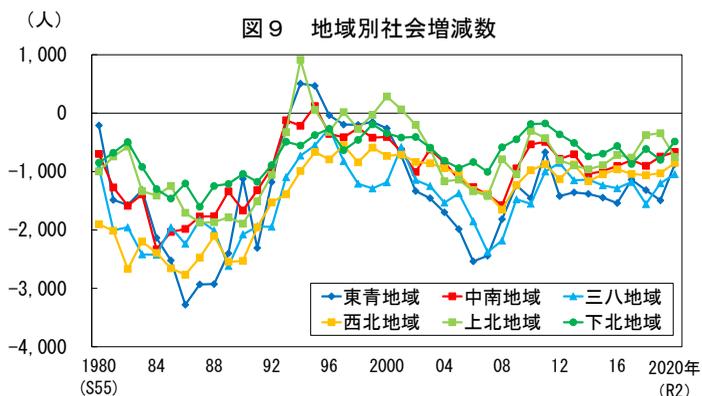
自然動態（出生数－死亡数）は、西北地域が他地域に先駆けて1991年から自然減に転じた。全県的に自然減に転じたのは1999年であったが、三八地域は2003年、上北地域は2004年と、比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。（図8）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

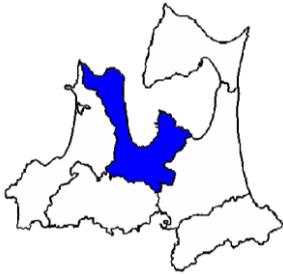
(8) 各地域の社会動態

社会動態（転入者数－転出者数）では、特に東青地域や上北地域において年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。三八、西北、下北地域では1980年以降一貫して、2002年以降は全ての地域において社会減が続いている。（図9）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

3 地域の現状



東青地域

| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|------|---------|---------|----------------------|
| 青森市 | 276,339 | 137,018 | 824.61 |
| 平内町 | 10,572 | 4,882 | 217.09 |
| 今別町 | 2,454 | 1,389 | 125.27 |
| 蓬田村 | 2,677 | 1,145 | 80.84 |
| 外ヶ浜町 | 5,664 | 2,804 | 230.30 |
| 合計 | 297,706 | 147,238 | 1,478.11 |

資料：総務省（人口・世帯数, 2021年4月1日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2021年10月1日現在）

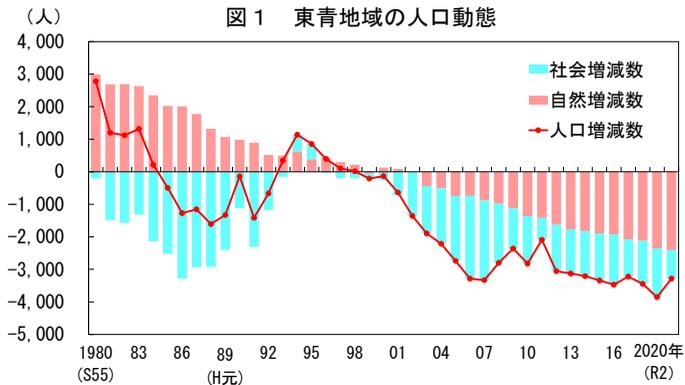
| 地点 | 平均気温 (°C) | 最高気温 (°C) | 最低気温 (°C) | 日照時間 (時間) | 降水量 (mm) | 降雪量 (cm) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 青森 | | | | | | |
| 平年値 | 10.7 | 27.8 | -3.5 | 1,589.2 | 1,350.7 | 567 |
| 2021 | 11.5 | 34.2 | -7.9 | 1,785.7 | 1,382.5 | 488 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値

資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2002年以降減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2013年以降減少幅が拡大傾向にあるものの、2019年の-1,493人から2020年は-874人と減少幅が縮小した。（図1）

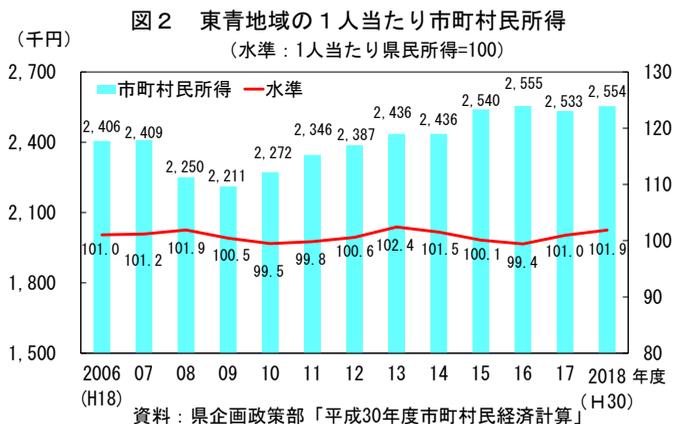


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

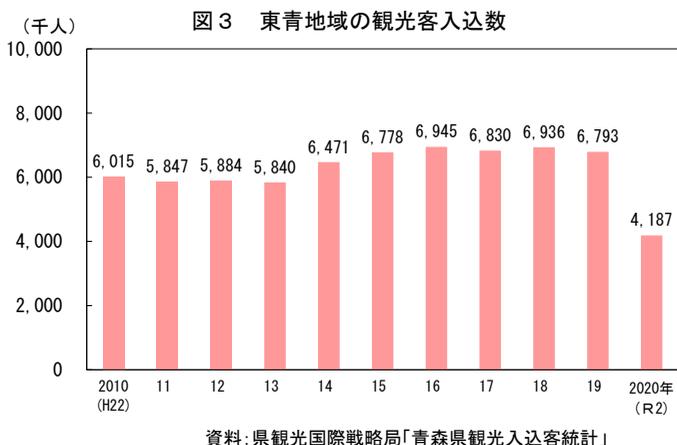
1人当たり市町村民所得は、2010年度以降は概ね増加傾向にある。

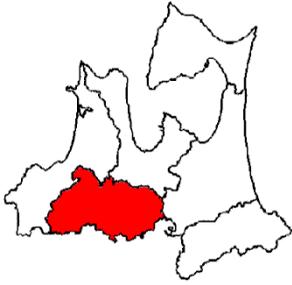
また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、県と同程度の水準を概ね横ばいで推移している。(図2)



■ 観光客入込数

観光客入込数は、2014年以降600万人以上で推移していたが、2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間約419万人まで減少した。(図3)





中南地域

| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|------|---------|---------|----------------------|
| 弘前市 | 167,061 | 80,187 | 524.20 |
| 黒石市 | 32,327 | 13,838 | 217.05 |
| 平川市 | 30,616 | 12,120 | 346.01 |
| 西目屋村 | 1,317 | 554 | 246.02 |
| 藤崎町 | 14,761 | 6,123 | 37.29 |
| 大鰐町 | 9,106 | 4,174 | 163.43 |
| 田舎館村 | 7,639 | 2,833 | 22.35 |
| 合計 | 262,827 | 119,829 | 1,556.35 |

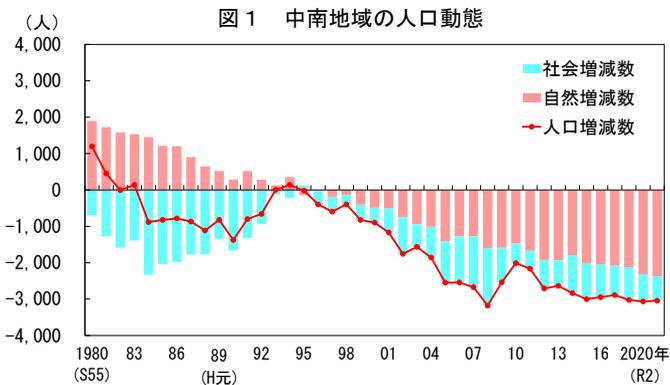
資料：総務省（人口・世帯数, 2021年4月1日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2021年10月1日現在）

| 地点 | 平均気温 (°C) | 最高気温 (°C) | 最低気温 (°C) | 日照時間 (時間) | 降水量 (mm) | 降雪量 (cm) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 弘前 | | | | | | |
| 平年値 | 10.6 | 28.8 | -4.6 | 1,585.1 | 1,255.3 | 679 |
| 2021 | 11.3 | 35.6 | -11.0 | 1,664.0 | 1,201.5 | 334 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、1995年以降減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は2014年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）

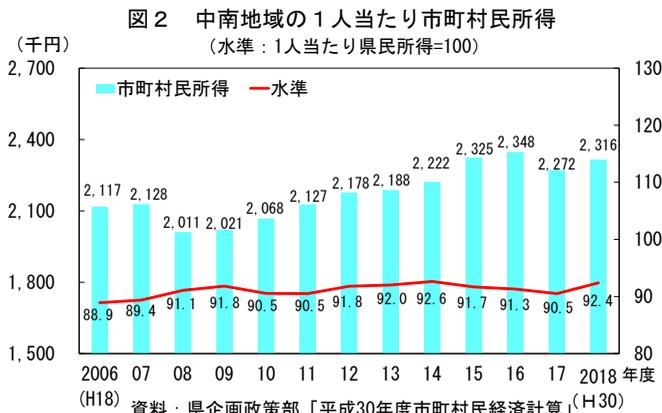


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

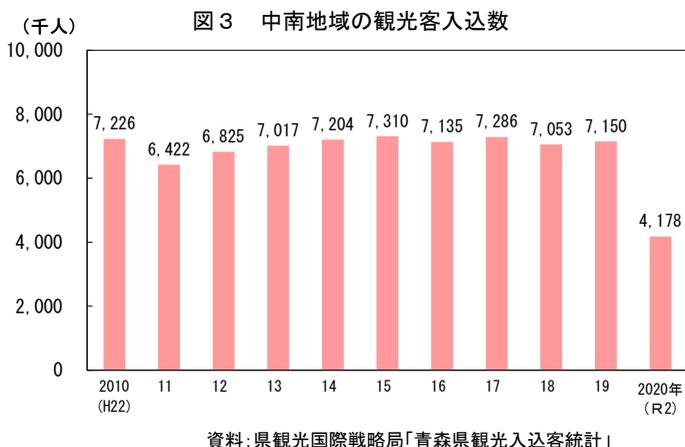
1人当たり市町村民所得は、2009年度から増加傾向にあり、2017年度は減少に転じたが、2018年度は再び上昇した。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、2009年度以降はほぼ横ばいの状況にある。(図2)



■ 観光客入込数

観光客入込数は、東日本大震災以降横ばいであったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年は年間約418万人まで減少した。(図3)



三八地域



| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|-----|---------|---------|----------------------|
| 八戸市 | 224,617 | 109,555 | 305.56 |
| 三戸町 | 9,596 | 4,212 | 151.79 |
| 五戸町 | 16,571 | 7,010 | 177.67 |
| 田子町 | 5,222 | 2,134 | 241.98 |
| 南部町 | 17,480 | 7,499 | 153.12 |
| 階上町 | 13,122 | 5,979 | 94.00 |
| 新郷村 | 2,335 | 915 | 150.77 |
| 合計 | 288,943 | 137,304 | 1,274.89 |

資料：総務省（人口・世帯数、2021年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2021年10月1日現在）

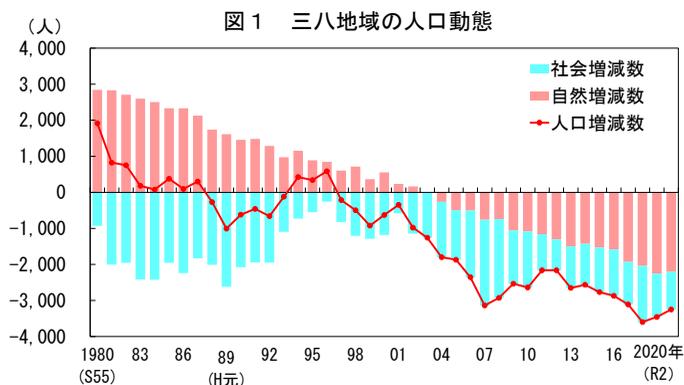
| 地点 | 平均気温 (°C) | 最高気温 (°C) | 最低気温 (°C) | 日照時間 (時間) | 降水量 (mm) | 降雪量 (cm) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 八戸 | | | | | | |
| 平年値 | 10.5 | 26.5 | -3.9 | 1,844.3 | 1,045.1 | 134 |
| 2021 | 11.3 | 33.7 | -11.7 | 2,006.2 | 1,012.5 | 112 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2003年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2018年の-1,557人から2020年の-1,045人まで減少幅が縮小している。

(図1)

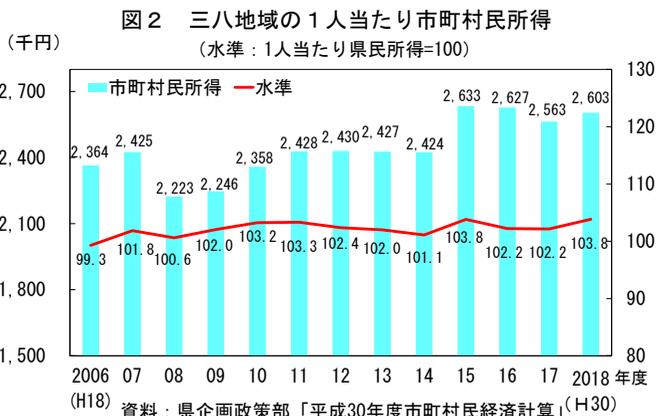


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

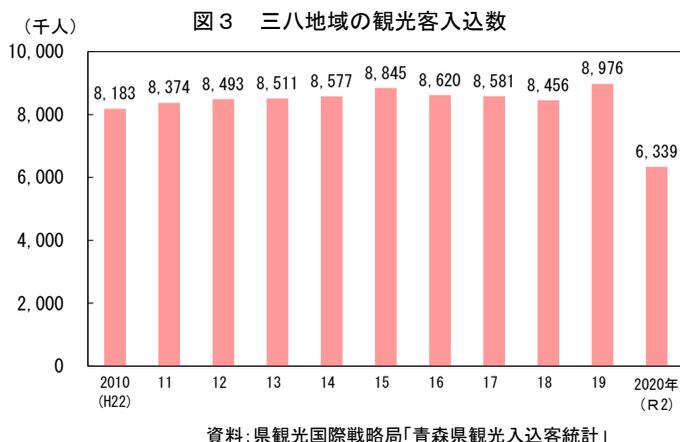
1人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

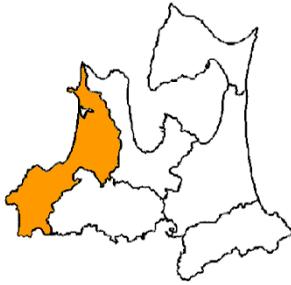
また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得水準については、県をやや超える水準を概ね横ばいで推移している。(図2)



■ 観光客入込数

観光客入込数は概ね横ばい傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間約634万人まで減少した。(図3)





西北地域

| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|-------|---------|--------|----------------------|
| 五所川原市 | 52,823 | 25,588 | 404.20 |
| つがる市 | 31,111 | 13,574 | 253.55 |
| 鱒ヶ沢町 | 9,373 | 4,492 | 343.08 |
| 深浦町 | 7,674 | 3,644 | 488.90 |
| 板柳町 | 13,109 | 5,455 | 41.88 |
| 鶴田町 | 12,408 | 5,405 | 46.43 |
| 中泊町 | 10,478 | 5,068 | 216.34 |
| 合計 | 136,976 | 63,226 | 1,794.38 |

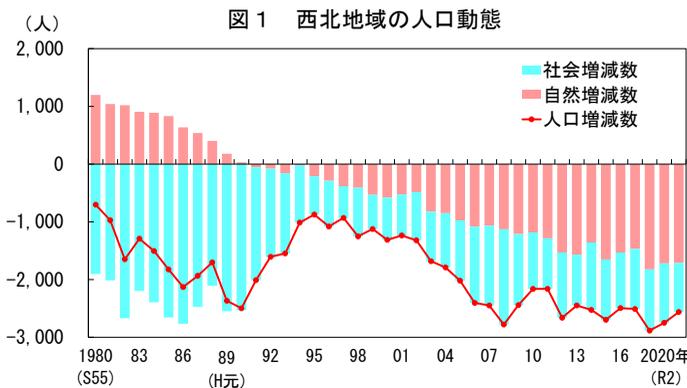
資料：総務省（人口・世帯数, 2021年4月1日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2021年10月1日現在）

| 地点 | 平均気温 (°C) | 最高気温 (°C) | 最低気温 (°C) | 日照時間 (時間) | 降水量 (mm) | 降雪量 (cm) |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 五所川原 | | | | | | |
| 平年値 | 10.6 | 28.2 | -4.2 | 1,497.4 | 1,280.4 | 543 |
| 2021 | 11.5 | 35.9 | -9.2 | 1,646.1 | 1,194.0 | 299 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、県内で最も早い1991年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は2009年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）

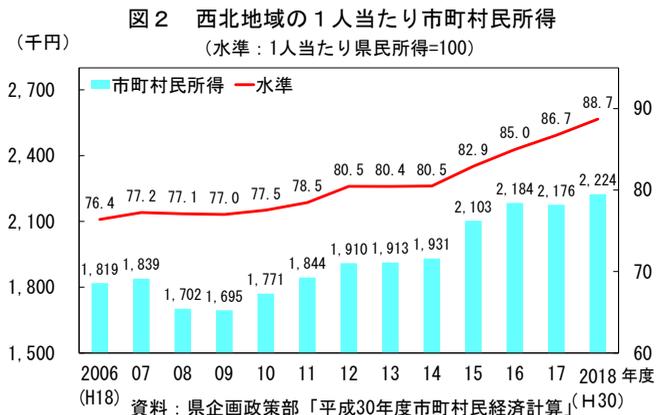


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

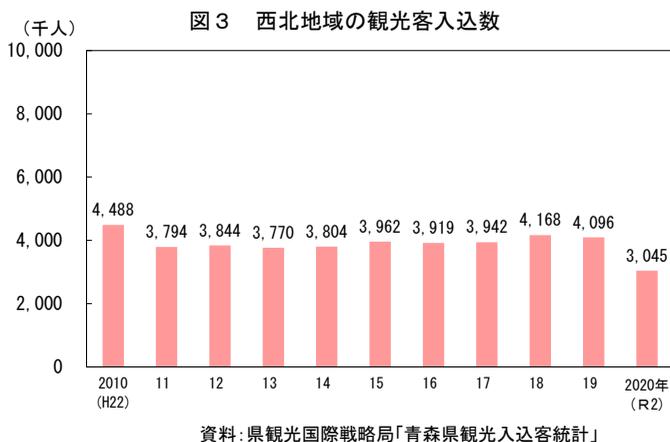
1人当たり市町村民所得は、2010年度から増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得水準は他地域と比較して低い水準となっているものの、近年その差は縮小が続いている。(図2)

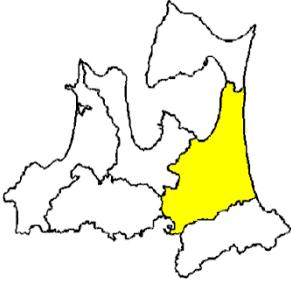


■ 観光客入込数

観光客入込数は、微増傾向で推移していたが、2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間約305万人まで減少した。(図3)



上北地域



| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|-------|---------|--------|----------------------|
| 十和田市 | 59,963 | 27,877 | 725.65 |
| 三沢市 | 38,816 | 19,358 | 119.87 |
| 野辺地町 | 12,812 | 6,461 | 81.68 |
| 七戸町 | 14,994 | 6,806 | 337.23 |
| 六戸町 | 10,947 | 4,552 | 83.89 |
| 横浜町 | 4,351 | 2,113 | 126.38 |
| 東北町 | 17,027 | 7,291 | 326.50 |
| 六ヶ所村 | 10,099 | 4,946 | 252.68 |
| おいらせ町 | 25,240 | 10,606 | 71.96 |
| 合計 | 194,249 | 90,010 | 2,125.84 |

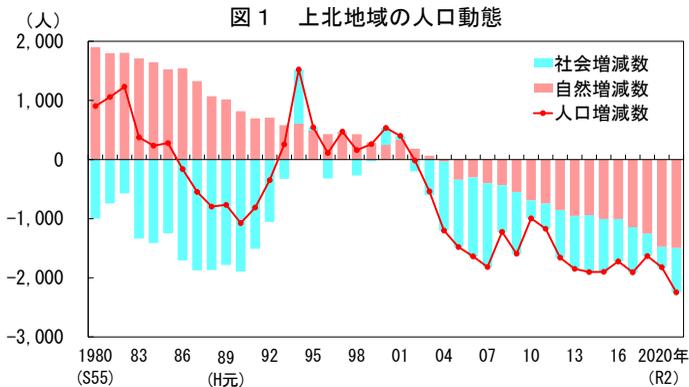
資料：総務省（人口・世帯数、2021年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2021年10月1日現在）

| 地点 | 平均気温 （℃） | 最高気温 （℃） | 最低気温 （℃） | 日照時間 （時間） | 降水量 （mm） | 降雪量 （cm） |
|------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 十和田 | | | | | | |
| 平年値 | 9.8 | 26.7 | -6.2 | 1,755.1 | 1,031.1 | 395 |
| 2021 | 10.6 | 34.5 | -20.1 | 1,580.8 | 911.0 | 233 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2004年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は、2019年の-343人から2020年は-749人と減少幅が拡大した。（図1）

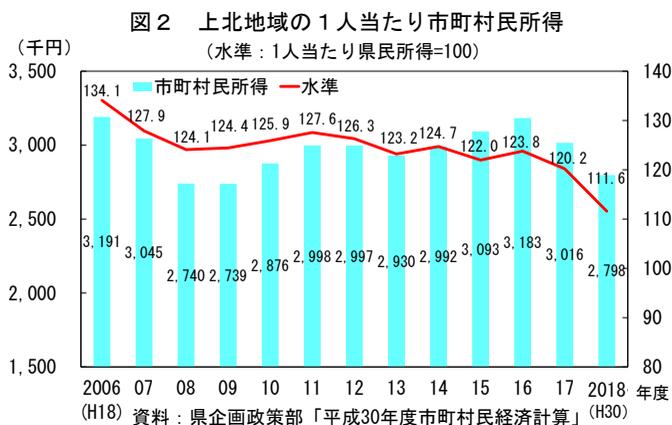


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

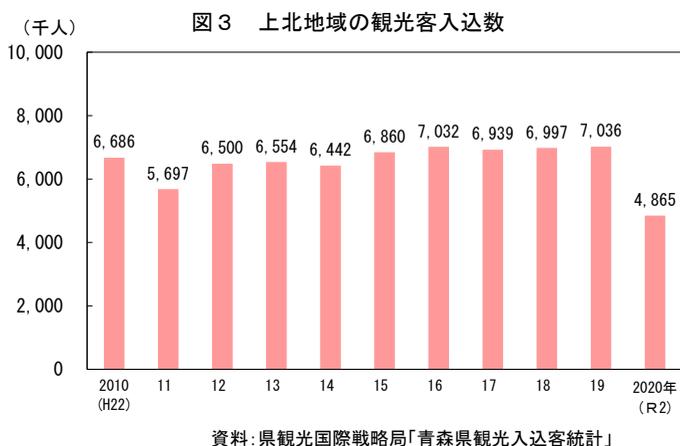
1人当たり市町村民所得は、製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びていたが、近年は2017年度以降減少している。

また、2006年度以降すべての年度で、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得水準が高く、これは他地域と比較して最も高い水準にあるが、2018年度は県水準との差が縮小した。(図2)



■ 観光客入込数

観光客入込数は、近年は700万人前後で推移していたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、年間約487万人まで減少した。(図3)



下北地域



| | 人口（人） | 世帯数 | 面積（km ² ） |
|------|--------|--------|----------------------|
| むつ市 | 55,354 | 28,730 | 864.20 |
| 大間町 | 5,011 | 2,472 | 52.09 |
| 東通村 | 6,095 | 2,810 | 295.27 |
| 風間浦村 | 1,772 | 892 | 69.46 |
| 佐井村 | 1,879 | 921 | 135.05 |
| 合計 | 70,111 | 35,825 | 1,416.07 |

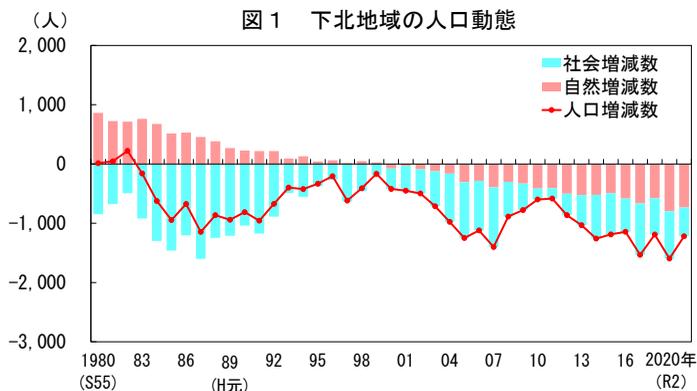
資料：総務省（人口・世帯数, 2021年4月1日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2021年10月1日現在）

| 地点 | 平均気温 （℃） | 最高気温 （℃） | 最低気温 （℃） | 日照時間 （時間） | 降水量 （mm） | 降雪量 （cm） |
|------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| むつ | 9.8 | 25.8 | -4.9 | 1,577.4 | 1,357.6 | 365 |
| 2021 | 14.5 | 33.3 | -14.2 | 1,635.3 | 1,623.0 | 303 |

※平年値：1991～2020年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2000年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にあるものの、2020年の減少幅は縮小した。社会動態についても2020年の減少幅が縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数の減少幅も縮小した。（図1）



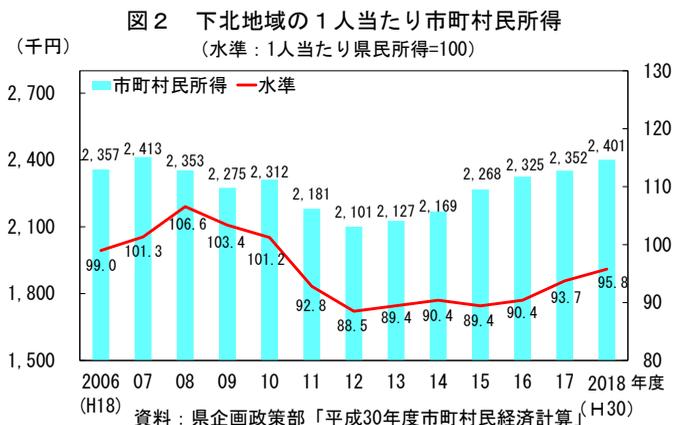
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

1人当たり市町村民所得は、2013年度以降は上昇傾向である。

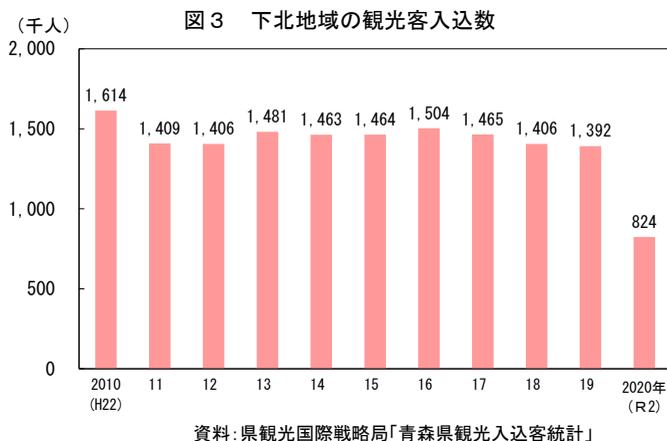
また、2011年度以降すべての年度で1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準が下回っているものの、ここ数年はその差は縮小傾向にある。

(図2)



■ 観光客入込数

観光客入込数は、東日本大震災の影響で大きく落ち込み、その後2016年までは徐々に回復していたが、2017年以降緩やかに減少しており、さらには新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年は年間約82万人まで減少した。(図3)



4 地域のここが推し

東青地域のここが推し

◆「龍飛岬マツカワ」～青函トンネルからしみ出る海洋深層水で育つ「幻の魚」～



養殖の様子

マツカワガレイは、身が厚く程よく脂も乗ったおいしい魚で、刺身やお寿司で食べると最高の味わいです。漁獲量が極端に少ないため、非常に高価で、日本料理店や寿司店等で高級食材として利用されており、スーパーなどに並ぶことがほとんどないため、「幻の魚」とも言われています。



絶品の漬け丼

「龍飛岬マツカワ」は、青函トンネルの湧き水である清浄な海洋深層水を汲み上げ、かけ流しで養殖されたマツカワガレイで、年間を通して安定した水温・水質で養殖されているため、健康的で成長が良く、身の厚いことが特徴です。龍飛岬方面にお出かけの際は、是非ご賞味ください！

◆ますます賑わう青森ウォーターフロント あおもり駅前ビーチ (A-BEACH) 完成

かつて青函連絡船の発着地として多くの旅人や船員が行き交う場所だった青森ウォーターフロントが、海辺の環境再生と新たな賑わい空間の創出につながる親水空間として生まれ変わりました。

2021年7月に完成したあおもり駅前ビーチは、青森駅のすぐそば、A-FACTORY とねぶたの家ワ・ラッセに隣接し、干潟面積はサッカーコートとほぼ同じ大きさの約7000㎡です。多目的テラス等を有する賑わい施設も同時オープンしたほか、シーカヤックやミニボートなどの体験型イベントも開催されるなど、子どもから大人まで楽しめる賑わいの場となっています。ますます充実する「青森ウォーターフロント」。是非お楽しみください！



A-Factory とワ・ラッセに隣接するビーチ



ベイブリッジを望む

中南地域のここが推し

◆幻の伝承野菜！「大鰐温泉もやし」

みなさん、青森県には希少な「幻のもやし」があることをご存じでしょうか。

その名も、「大鰐温泉もやし」。一般的なもやしと大きく異なり、その特徴は何といても特殊な形状や味わいです。一般的なもやしの長さは5cm程度ですが、大鰐温泉もやしはなんとその8倍程の約40cm！そして、太さは一般的なもやしの半分以下。このギュッと細長い形状が生み出すシャキシヤキの歯ごたえと豆のうま味が絶品です。

さらに、おいしさの理由として、甘味・うま味を呈する「アラニン」というアミノ酸が、一般的な大豆もやしに比べて約3.7倍含まれていることが研究で分かっています。

そんな大鰐温泉もやしですが、歴史は古く、今から約400年前の江戸時代まで遡ります。大鰐温泉は歴代の津軽藩主の湯治場として名の通った温泉で、藩主が訪れた際は、必ず大鰐温泉もやしを献上していたんだとか。

また、冬が長く厳しい津軽地方にとって、温泉熱を利用して栽培した大鰐温泉もやしは、昔から貴重な冬野菜であり、重要な栄養源だったようです。

では、大鰐温泉もやしはどのようにして作られているのでしょうか。一般的なもやしとどのような違いがあるのでしょうか。

まず、もやしは豆から出来ている食品ですが、大鰐温泉もやしとして使われる豆の品種は「小八豆（こはちまめ）」と呼ばれる大鰐地域で何百年と引き継がれてきた伝統的な大豆に限られています。

次に、栽培方法ですが、通常のもやしは水耕栽培（土を使わず、水と液体肥料で栽培する方法）で作られるのに対し、大鰐温泉もやしは日本でもかなり珍しい、土耕栽培（土を利用して栽培する方法）で作られています。大鰐地域の栄養たっぷりの土が使われていて、完全無農薬・無化学肥料で育てられているんです。

さらに、栽培の過程では温泉水を活用しています。土の保湿、地温の調整、また、収穫に伴い土を洗い流す際など、あらゆる場面で大量の温泉水を用いており、



伝統の冬野菜「大鰐温泉もやし」



大鰐温泉もやし栽培の様子

水道水は一切使っていません。まさに、温泉地である大鰐ならではの知恵と工夫の結晶なのです。

以上の小八豆・土耕栽培・温泉水の3つの要素、そして生産者たちの熱い想いや妥協を許さないこだわりが、品質の良い「大鰐温泉もやし」を作り出す秘訣になっています。

県内でもなかなか手に入らない希少な野菜です。ぜひ大鰐町を訪れて、大鰐温泉もやしの味と食感をお確かめください。



大鰐温泉もやし特製「うまか丼」
提供：お食事処 花りんご（鰐 come 内）

◆古津軽の伝承料理を次の世代へ。「津軽あかつきの会」

冬場の津軽地方では、降雪や厳しい寒さのために作物を育てることができなかったため、春から秋にかけて収穫した畑や山の恵みを「干す」・「発酵させる」といった長期保存の方法や、それらを冬に美味しく調理する知恵が生まれ、郷土料理となっていきました。

そういった知恵をお互いに教えあう風景が昭和の中頃までは盛んに見られましたが、最近はそのような機会も少なくなりました。このままでは地域の伝承料理が失われるかもしれない、そんな危機感から立ち上がったのが、伝承料理を受け継いで次世代に伝えることを目的に結成された女性の集い、「津軽あかつきの会」です。



津軽あかつきの会メンバー

「津軽あかつきの会」では、伝承活動の一環として、季節の食材を使った伝承料理をランチで提供しています。※

お膳に並ぶたくさんのお鉢料理は、色とりどりで栄養豊富。民家で味わう懐かしい家庭料理は、おばあちゃん家に遊びに行った気分になります。慌ただしい今の時代だからこそ、先人たちの暮らしぶりに思いを馳せながら、手間暇かけて、真心こめて作られた伝承料理を味わってみませんか。



古津軽の伝承料理

※営業日は毎週木、金、土、日の 11:30～14:00。

人数は4名から受付、1食1,500円～。

下ごしらえのため4日前までの予約が必要です。

住所：青森県弘前市大字石川家岸 44-13（お問い合わせ：090-7665-8468）

三八地域のここが推し

◆全てが特別な「ごのへ三大肉」

数々の賞を受賞しブランド牛としてその名を全国に轟かせた「あおもり倉石牛」は、豊かな自然に恵まれた五戸町倉石地区で肥育される黒毛和種の中でも、高品位のものしか冠することができないブランドであり、絶賛に値するほどの霜降り肉を堪能できます。

また、市場から非常に高い評価を受けている「青森シャモロック」は、

青森県畜産試験場が20年の歳月をかけて交配した高品質な地鶏で、繊細な肉質と奥深く濃厚な味わいを特徴に持ち、あふれ出す旨味としっかりとした噛み応えが楽しめます。

さらに、五戸町の特産品として長く親しまれている「馬肉」は、桜肉と言われるゆえんでもある鮮やかな赤みが特徴で、食卓を華やかに飾る特別な一品。低カロリー・低脂肪・低コレステロール・高たんぱく質な馬肉は、栄養価が高く太りにくいことから、ヘルシーな食材として人気が高まっています。



あおもり倉石牛・青森シャモロック・馬肉

◆みろくひめにんにく日本一の町が開発した「美六姫」

にんにくと言えば、田子。田子と言えば、みんなが認める国産極上になんにくの生産地。たくさんの人から喜ばれる田子町のにんにくは、冷涼な高原の気候と、この地に暮らす人々のあたたかな思いやりからできています。

そんな田子町が7年もの月日を費やし、青森県産業技術センターと開発したにんにく「美六姫」をご存じでしょうか。

「美六姫」は6片種系統で1片が大きく、香り、旨味、甘みが強いのが特長で、美しい白さを誇っています。

今後生産量を拡大し全国へその魅力を発信してい

く予定ですが、独自の選果基準をクリアした「美六姫」は希少で数量に限りがあることから、現在は田子町ガーリックセンターでのみ取り扱いしております。

田子町へお越しの際は、にんにく日本一の町が開発した特別なにんにくをぜひご賞味ください。



収穫をむかえた「美六姫」

西北地域のここが推し

◆しゃこちゃんのふるさと「亀ヶ岡石器時代遺跡」



JR五能線木造駅

ゴーグルを装着した宇宙人のような目、ふくよかな体型に片足立ちの姿。縄文時代のアイコン的存在として認知される遮光器土偶は、亀ヶ岡石器時代遺跡から発掘されました。地元では「しゃこちゃん」の愛称で親しまれ、目が7色に光る木造駅と一体化した高さ17mの巨大なモニュメントは、圧倒的な存在感があります。

遺跡にほど近い田小屋野貝塚からは「ベンケイガイ製貝輪（ブレスレット）」が出土しており、縄文人の技術と芸術性の高さをうかがい知ることができます。

つがる市役所に隣接するつがる市縄文住居展示資料館「カルコ」では、両遺跡からの出土品を中心に、縄文時代晩期の大型竪穴建物、縄文時代前期の女性人骨、遮光器土偶の精巧なレプリカなどが展示されています。また、遺跡の近くには木造亀ヶ岡考古資料室があり、漆塗り土器などの出土品が展示されています。



つがる市縄文住居展示資料館「カルコ」

縄文遺跡案内所（亀ヶ岡石器時代遺跡隣接）では、ボランティアガイド「つがる縄文遺跡案内人」が、地下に眠るロマンを案内してくれます（4月～11月、土日・祝の10時～15時）。

毎年夏休み頃に「J OMON 亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚まつり」が開催され、地元高校生がガイドする田小屋野ウォークが人気を博しています。

また、地元高校生のアイデアから生まれた「しゃこちゃんケーキ」、「しゃこちゃんサブレ」は土産品として人気商品となっています。



たいま菓子店
「しゃこちゃんケーキ」

◆白神山地の清流で育つ幻の魚イトウ

イトウは体長が 2m 以上にもなるサケ科最大の魚で、冷水を好み、普段は水のきれいな川の上～中流部に生息しています。他のサケ科の魚と異なり、何年も繰り返し卵を産み、寿命は 20 年以上といわれています。以前は、青森県内でも天然のイトウが生息していましたが、現在は、北海道の一部の河川にしか生息していないとされ、釣り人たちの間で「幻の魚」と呼ばれます。

鱒ヶ沢町・深浦町では 1980 年代中頃から養殖に着手し、両町の特産となっています。

川魚特有の淡泊さにサケ類特有の上品な甘みと脂が加わった食味です。代表的な食べ方はお刺身ですが、切り身に塩、コショウ、小麦粉をまぶして焼くムニエルや、タマネギ、ピーマン、ニンジン等を加えサラダ油と酢で和えるマリネもおすすめです。両町の飲食店、宿泊施設等で提供しているほか、冷凍した押し寿司などの加工品を購入することができ、ふるさと納税の返礼品としても人気があります。



イトウの刺身

上北地域のここが推し

◆世界文化遺産「ニツ森貝塚」

七戸町にあるニツ森貝塚は、2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の1つです。小川原湖から西に約3.5kmの台地上に造られた、貝塚を伴う集落遺跡で、今から約5500～4000年前（縄文時代前期～中期）に縄文人が生活していたことがわかっています。

遺跡は史跡公園として公開されており、竪穴住居や貝塚の貝殻が散布している状況がご覧になれます。また、遺跡から約800m離れた場所にある「ニツ森貝塚館」では、動物の骨や実物の貝塚を剥取った断面など貝塚ならではの資料を展示しているほか、各種体験講座を開催しています。事前予約をしていたらボランティアガイドの案内を受けることもできます。ぜひ足を運んでいただき、縄文時代の人びとの暮らしに思いをはせてみませんか。



ニツ森貝塚史跡公園



ニツ森貝塚館内（常設展示室）

◆清水目ダムオートキャンプ場

清水目ダムオートキャンプ場は、清水目川上流の清水目ダムのそばに位置するキャンプ場です。谷あいのロケーションで、周囲を山に囲まれ、閑静な自然に恵まれています。静けさと季節の移り変わりを楽しめ、時を忘れて自然を感じる絶好のキャンプスポットとなっています。ぜひお越しください。

開園期間は7月から10月までとなっております。



清水目ダムオートキャンプ場

下北地域のここが推し

◆来さまい大畑桜ロード

来(か)さまい大畑桜ロードは、むつ市の中心市街地から大間方面に向かって車で30分弱、国道279号線の大畑バイパス沿いに続く桜並木です。

全長およそ8km、約1,400本にもおよぶソメイヨシノが道の両脇を彩り、曲がってもまだ桜、下ってもまだ桜が続きます。満開の桜のトンネルは走り抜ける車窓からでも十分に楽しむこと

ができ、春のドライブスポットとしてオススメです。花より団子派の皆様も、車内に団子を用意すれば気分はもう花見栈敷。ごゆっくりとはいきませんが、気分をお楽しみいただけることでしょう。

「来さまい」とは下北地域の言葉で「おいでください」を意味し、「来さまい大畑桜ロード」の名称は一般公募で選ばれました。

車窓からの満開の桜を、桜吹雪の中を駆け抜ける爽快さを味わいに来さまい！



約8kmにわたって続く桜並木

◆孤高の岩峰「縫道石山」

縫道石山(ぬいどういしやま)は、東北百名山の一つにも選ばれている標高626mの岩山です。山頂付近には、日本ではここにしかない地衣類「オオウラヒダイワタケ」が群生するなど、特色のある植物群が国の天然記念物に指定されています。

山頂付近が切り立った崖のように見える特徴的な山容は、過去には操業する漁船の目印になっていたとされていますが、現在は比較的手軽に登ることができる、登山者に人気の山となっています。

登山口からゆっくり登って約90分の山頂からは、陸奥湾、津軽海峡、晴れていれば函館山、反対側を向くと野平高原、下北西部の地形を一望でき、360度の絶景が楽しめます。登山を楽しんだ後には、下北らしい熱めの温泉で疲れを癒すのもお勧めです。下北の雄大な自然を満喫してみませんか。



山頂から望む絶景